60039
教科書文庫
6
920
46-1950
20000
21556

375.9
H018
資料室

被服

I

文部省検定済教科書

広島大学図書
2000021556

375.9
H0.18
資料室

教科書文庫
6
920
46-1950
2000021556

文部省検定済

昭和25年8月12日　高等学校家庭科用

被服 I

東京家政大学教授　堀越すみ著

広島大学図書
2000021556

中教出版株式会社

広島大学教育学部図書室

まえがき

被服生活は，その仕方によってはせいたくにもなる。又，單に寒暑をしのぐ程度でも生きられる。しかし，その中道を行くのが文化人の生活である。そうして文化人の生活には計画性があり，社会性がある。生活に計画があれば，いろいろの方面にむだがない。社会性があれば，被服によって個性を生かすと同時に，自分の容姿がやがて家庭や社会の姿であることに氣がつく。又，これと同時に家庭や社会の経済も考え合わせる。このような生活をするには，被服を選ぶ能力と，いつも快い容姿を保とうとする態度とが肝要である。

本書は，これらのことを学ぶために書かれたもので，その学習により，被服生活に直接必要な知識，技能を身につけることができる。又，その間に勤労の尊さを知り，協力，奉仕の態度や，被服生活を簡易にし科学的にしようとする態度を養うこともできるであろう。

今わが國では，被服用資材の不足や家庭経済の逼迫（ひつぱく）などの事情によって，耐乏の被服生活を余儀なくされている。このような生活の中から，工夫し改善してよりよい家庭生活を創造して行くことが，私どもに課せられた生きた問題である。

一般家庭の被服用として用意された本書は，学習の手引きであるから，各自の研究により，一層深く堀り下げ，又，かくされてある重要な事柄を引き出し，実習によってその知識と技能とを確かなものに，日常生活に実践して，生活の改善向上に資することを期待するものである。

広島大学教育学部図書室
21556

目　次

まえがき……2
学習と指導について……5
單元 1. 被服生活の計画……7
1. 被服生活に必要な條件……7
2. 高等学校生徒の身なりは，どうありたいか……8
(1) 感じのよい容姿はなぜ必要か……8
(2) よい容姿に必要な條件……8
(3) 女子学生の被服はどんな種類が，何枚ぐらい必要か……10
3. 被服の材料は，どのように選ぶか……16
(1) 被服材料にはどんなものが使われるか……17
(2) 糸はどのようにしてつくられるか……18
(3) 織物にはどんな種類があるか。その組織はどうなっているか……18
(4) 織物の柄は，どのようにつくられるか……19
(5) 染色物の仕上げには，どんなことがなされるか……20
(6) 衣服材料の性質と用途に適する材料の選び方……20
單元 2. 平常着の製作……24
1. 私どもの平常着……24
(1) デザイン……25
(2) 私どもの平常着にふさわしいデザイン……28
(3) 原型のつくり方……31
(4) ブラウズとスカート……38
(5) 補正の仕方……44
(6) ワンピースドレス……45
(7) どんな被服が涼しいか……50
(8) 用途に應じた服装品の選択……50
(9) よい身なりと作法について……50
(10) 流行について……50

2. 家族の平常着……51
(1) 長 着……51
(2) 帯……64
3. 和服と洋服との比較……66
4. 下着類……67
(1) 種類・着方・用布について……67
(2) ブラジャー……68
(3) コーセットとガーターバンド……69
(4) 下ばき・中ばき……70
(5) スリップ……71
(6) 長じゅばん（あわせ）……72
5. たび・くつ下……73
6. 手 袋……75
単元 3. 手入れと保存……79
1. 日常の手入れ……79
2. 洗たく……81
(1) 洗たく物の分類……81
(2) 水，洗たく剤，洗たく用具について……82
(3) 洗たくの方法……84
(4) 洗う時の注意……85
(5) まる洗い……86
(6) とき洗い……88
3. しまい方……89
(1) 清 潔……90
(2) 乾 燥……90
(3) 防 虫……91
(4) 容器と保存……92
索 引……94

学習と指導について

生徒へ

1. 本書は，学習の手引きとなるものであるから，内容を考えたり，話し合ったり，かくされている問題を見いだして，学習内容を豊富にすると共に，その知識を確実なものにすることが望ましい。

2. 單元の学習に当っては，先生や級友と協議して学習計画を立て，單元の目標をきめ，その目的の達成に努める。本書には單元の目標を例示してあるが，観点を異にすれば，異なった目標があるであろう。

3. 製作・手入れ・保存などは，実習によってはじめてその技能を確実なものにすることができる。従って，学習したいことは努めて家庭において，その技能を働かして熟練することが大切である。

4. 学習活動を助けるものとして，次のことが望ましい。

(1) 専門家や先輩の経験談を聞く。

(2) 新聞，雑誌，ラジオなどを利用して資料を取り，これを類別整理して，学習参考に活用する。

(3) 社会施設や工場・商店などを見学する。

(4) 製作品の展示会を開き，作品につき批判・討議などをする。

(5) 理科や社会などの既習事項と連絡を密にして学習する。

(6) 巻末の索引を活用して，学習の効果をあげる。

5. 参考書

著 者	書 名	発行年月	発行所	ページ	定價
大森 松代	服装美を求めて	昭和23.10	光 生 館	122(A5)	120.00
田中 千代	創意と衣服	23.12	船場書店	223(B6)	180.00
庄司 光	衣服と衛生学	24.1	光 生 館	212(A5)	270.00
小川 安朗	被服の知識	17.8	羽田書店	264(B6)	1.40
菱山 衡平	最新衣類整理法	5.8	婦女界社	605(B6)	3.00
斎藤 俊吉	衣服材料	18.4	光 生 館	304(A5)	70.00
青木 良吉	洗濯の理論と実際	22.5	コロナ社	289(A5)	80.00

町田菊之助	洋裁科学講座(第三巻)	22.4	ハンドブック社	117(A5)	50.00
石田　はる	和服裁縫要決	21.2	三集社出版部	298(A5)	70.00
奈良女高師裁縫研究会	裁縫精義　第一篇	24.4	東洋図書	221(A5)	230.00
米沢　光	〃　第二篇	23.11	〃	196(A5)	180.00
〃	〃　第五篇	23.11	〃	223(A5)	190.00
〃	〃　第六篇	24.2	〃	308(A5)	300.00

教師へ

1. 本書は，高等学校家庭科「一般家庭　被服用」としてつくったものである。従って，上級用としてつくられた被服教科書と合わせて全きものとなる。

2. 單元の順序は，学校の事情によって適当に変更してもよい。

3. 実習製作に当っては，現在のわが國の衣料事情と家庭経済の面とを考慮して，更生利用を主眼として，新調をできるだけひかえるように指導せられたい。

4. 実習製作について，次のことに注意せられたい。

(1) スカートとブラウズ及びワンピースドレスのうち，どちらか一つを実習すればよい。

(2) 女物のひとえ長着とあわせ長着のどちらか一つを実習する。

(3) 下着類としてスリップ以下数種をあげてあるが，これもどれか一種類を実習すればよい。

(4) たび・くつ下・手袋についても同じく，このうち一種類を実習すればよい。

5. 指導の目標が達成されたかどうかを判断するために，所定の評價方法によって，目標に対する生徒の関心・理解・認識・意欲・実習成績の程度を評價し，記録しておき，後の学習の参考にせられたい。

廣島大學圖書之印

單元 1.　被服生活の計画

單元の目標

1. 被服生活には，計画の必要であることを理解し，計画を立てる知識と能力を身につける。

2. 感じのよい容姿は，なぜ必要であるかを理解し，それにはどんな條件が必要であるかを知る。

3. 私どもには，どんな被服が適するかを判断する能力を身につける。

4. 私どもは，自分に適する着物を理解し，その種類及び数量を知り，被服計画の基礎とする態度を養う。

5. 被服の修繕・更生・新調について，家族関係・家庭経済・國内経済などを考慮して，計画を立てる態度と能力を養う。

6. 更生・修繕によって，物資を活用する精神と技能を養う。

7. 被服材料及び種類などについて，その特性を知ると共に，織物の種類によって，どんなに使ったらよいか，その知識と技能を養う。

1. 被服生活に必要な條件

冬が來ても寒さをしのぐ着替えの用意もなく，又，急な用事で他家を訪問しなければならないのに，よごれた被服ばかりであったり，あるいは，ある種類の被服ばかりが多くて，あるものは全く無く，必要にせまられて，あわてるようなことであったならば，どうであろう。

およそ物の豊富な時には，あるにまかせて新調し，むだの多い生活をしていても氣がつかないが，不足してはじめて計画の必要を感じるものである。じょうずに被服生活を整えることは，私ども女子に與えられた責任ともいえるのである。乏しい中にも計画すれば，

わずかな被服でも，礼儀にかない，保健に適した整え方をするのにこと欠かないものである。それには，(1) 正しい被服のあり方，(2) 被服の必要数の決定，(3) 材料の選択，(4) 製作の選択などについて，豊かな知識と熟練した技術とが必要になって來る。

2. 高等学校生徒の身なりは，どうありたいか

(1) 感じのよい容姿はなぜ必要か

人柄は服装に表われ，服装はまたその人柄をつくるといわれ，それを着る人の教養が大切である。人と衣服とが調和して美しさを発揮するものであり，ひいては國の美しい風俗ともなるものである。

他人のよい容姿を見ると快さを感じ，どんな被服を着ても氣品を備えた人に対しては，尊敬の念が起る。「他人に何と思われようとも，自分は平氣だ。」と，不格好な服装で道づれしようとするのは，相手を恥しめ，大変失礼である。貧しいながらさっぱりとした服装で，しかも，その中に犯しがたい氣品を持ちたいものである。自分の身なりを整えることは，落ち着きと自信をもって行動することができると共に，相手に対する礼儀のためでもある。お互が感じのよい容姿であったならば，家庭生活を明るくし，さらに直接間接に社会までも明るくするであろう。

(2) よい容姿に必要な條件

私どもは，学生らしい心掛を持つと共に，服装や言語や動作などが，学生の天性を発揮するのにふさわしいものでなければならない。

よい容姿であるために，欠くことのできないものは健康である。学生には皆伸びようとする若さがあり，健康がある。これこそよい容姿に最も大切な要素である。ことわざに「健全なる精神は，健全なる身体にやどる。」と，いわれているように，健康はまた健全な精神にもなくてはならないものである。又，環境に調和し，個性を生

かした服装は，よい容姿の重大な要素である。学生は学生らしく，又，婦人は婦人らしい服装が最も美しいのである。

しかし，同じ被服をまとっても，着方や態度によっては，被服が表わす表情に相当の差異を生じるものである。従って，私どもは学生としての修業が，おのずとすべてに調和された容姿を生み出すことをも忘れてはならない。そこに清らかさが感じられ，そこからわき出る言語動作は，優美でしかも礼にかなったものとなるであろう。

人はだれでも美しくなりたいと思うであろう。美しくなる條件としては，健康・清潔が第一であるが，忘れてならないのは教養である。

健康は私どもの美しさの土台となるものである。健康で清潔な皮膚には，ほとんど化粧の必要がないものである。顔色が悪い場合などに化粧をする時でも，目立たないようにすることが望ましい。

健康な赤ちゃんの顔や手は美しい。それに化粧をしようとは，だれも思わないであろう。それは自然の美しさをそこねるからである。化粧が健康美をおおいかくすものであってはならない。どんなりっぱな着付け，化粧，髪形も髪がよごれていたり，つめが伸びていたり，手足が垢(あか)でよごれていたのでは，不衛生であるばかりでなく，他人に不快な感じを與えたり，礼を失するし，自分の品位を落すことにもなる。

髪のよごれは不快な臭氣を放つ上に，からだのためにもよくないから，しばしば髪洗い粉又は遊離アルカリの少ないせっけんなどで，洗髪するように心掛けよう。髪のみだれはまた，心のみだれとも見られるから，いつもきれいにとかし，結髪しておこう。髪は顔の背景であるから，髪の整え方によって，顔の形が違って見えるものである。髪形は，自分の顔によく似合い，簡素で，上品な学生らしさを表わすものでありたい。

はだの荒れた時は，クリームを用いることもある。場合によって

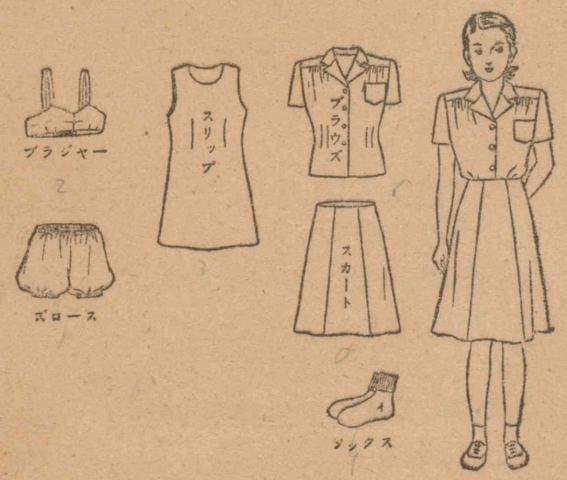
は紅・おしろいを用いることもあろう。このような時には，目立たないように簡素にしたいものである。紅やおしろいで美しくしたのは，生き生きした自然の健康美には及ばないものである。

(3) 女子学生の被服はどんな種類が，何枚ぐらい必要か

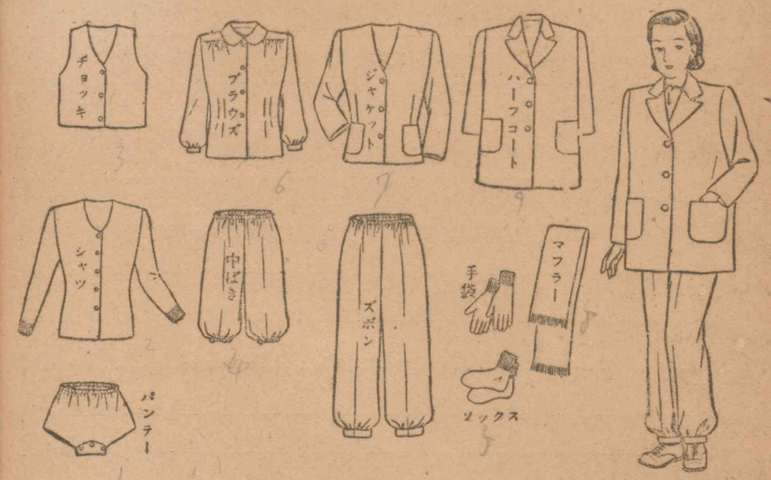
(イ) 女子学生の服装　成長の途上にある私どもは，心身を鍛練し，活動的であると共に，礼儀正しい態度が備わっていることが望ましい。従って，被服もそれを象徴するようなものがよい。地質は丈夫で，形はきりっと引き締まり，活動の場合にもみだれないことが必要である。又，通学用に学生服を着る場合は，学校という背景にも調和することが大切である。

次の図は，夏季用と冬季用の一そろいずつで，もちろん地方によっては，多少の相違もあろうが，大体標準になるものの一例である。なお，春，秋の季節にはどんなものがほしいと思うか，考えてみよう。

夏季の服装の一例



冬季の服装の一例



(ロ) 必要な被服の数　むだのない被服生活を営むには，一應その最低限度の被服の種類と，枚数の調査が必要である。被服の枚数を定めるには，家族の関係はもちろん，各人の生活環境によって異なり，材料においても形においても一様ではない。そこで，私ども学生に最も適した服の種類と最少の数の標準を調べ，家族の被服と考え合わせ，計画を立ててみよう。

(女子学生最低限度の被服の一例)

上着	ジャケット	毛織冬季通学用(スカートと一組になるもの)1	1
	スカート	毛織冬季用 1(ジャケットと一組になるもの) 毛織又は綿布間着用1	2
	セーター	毛糸編み長そで 1	1
	チョッキ	毛織又は毛糸 1	1
	ブラウズ	綿布・人絹・絹 半そで 3 長そで 2	5
	ズボン	毛織冬季用 1	1
	ワンピース	毛織春秋用 1　夏季用 1	2
外被	ハーフコート	毛織冬季用 1	1

作業着	エプロン	綿布 2	2
	作業用上着	綿布 1	1
下着	シャツ	綿布又は綿メリヤス はだ着用 3	3
	ズボン下	綿布又は綿メリヤス はだ着用 2	2
	ズロース	綿布又は綿メリヤス はだ着用 3	3
	ブルーマース	毛糸編みか毛織又は綿入れ 1	1
	スリップ	絹又は人絹 2	2
	コーセット	綿布 ガーター四本付き 1	1
	ブラジャー	綿布 1	1
	腰まき	綿布 2	2
その他	くつ下	長くつ下 4 ソックス 2	6
	手袋	冬季用 1	1
	マフラー	毛織又は絹 1	1
	ハンカチーフ	綿，又は人絹・スフ 4	4
	くつ	通学用 2 運動用 1 上ばき 1	4
	かさ	晴雨兼用 1	1

わが國で，1 箇年ひとり当りに使う被服地は，戰前では 10 ポンド内外であったが，現在では 1.5～2 ポンドに低下している。從って，手持ちの被服にこの割当を補って，1 箇年の計画を立てるのであるから，まず，最も必要とする最低衣料を，計画の基準として調べなければならない。

保健衣料は，氣候・環境・作業の狀態など，おのおのの立場によっても異なるが，ある女子学生について，最低の必要数を調べた結果は前の表のようであった。

私どもが持つ被服の明細表をつくり，前出の表を参考に必要の有無を檢討し，その基準を定めよう。なお，各1箇年の着用記録により，使用度数を調べて過不足を知り，新調か否かを決定しよう。

(ハ) 家族関係と被服　わが國では，戰前一般に他の生活費に比較して，被服費が必要以上に多くなる傾向があった。もとよりそれは，わが國の氣候の特性から，着物の種類を多く持つ必要も起るのであるが，その他吉凶の場合，儀礼の服に多額の費用をかけることや，経済の許す限り，無批判に必要以上の被服を集める悪い習慣などが，おもな原因であろう。

わが國の纖維資材は激減し，戰後の経済混乱は，容易に新調を望まれない狀態にあるから，この際，家族全体の持ち物を調査して，お互に讓り合うことが大切である。

概して家庭にある者は，外で働く者に比べて和服になれている。そこで当面の処置として，外で働く者には洋服を讓るか，なければこれに更生可能なものを讓って，家庭を預る女子は和服の二部式など，できるだけ便利な形を工夫して用いるのもよい。

＊ 各自の家庭における被服費は，全支出の何%か。

次の形式によって，上着・帶・外被・下着類などに分類して，家族の被服調査をしてみよう。

（家族の被服調査表のつくり方一例）

服種	名称	父		母		姉		私		弟	
		地質	数	地質	数	地質	数	地質	数	地質	数
上着	ワンピースドレス					木綿 人絹 絹	3	木綿 人絹	2		
	ひとえ長着	ゆかた 絹布 麻	4	ゆかた めいせん あかし 麻・お召 セル	8	ゆかた めいせん お召	5	ゆかた	2	ゆかた	2
	あわせ長着										

自分にほしいものがある場合にも，いつも自分だけ満たされればよいであろうか。家族のひとりがりっぱな被服をまとっても，家族の皆がみじめな姿であっては，すまないことではなかろうか。自分の被服計画には必ず，家族全体の被服を考慮し，家族全体のつりあいのとれた，予算のわくの中での計画であることが望ましい。

被服調査の結果，家族の各人がそれぞれ新調を必要とする数を決定し，家庭の経済状態ともにらみ合わせて，全体が希望通りに行かない時は，家族の話し合いによって互に融通し合い，各人の必要度を比較し，最も必要とする家族のものを先きにする。他のものは修繕して間に合わせるなどして，計画を立てるとよい。

これらは，円満な家族関係によってのみ解決されるであろう。

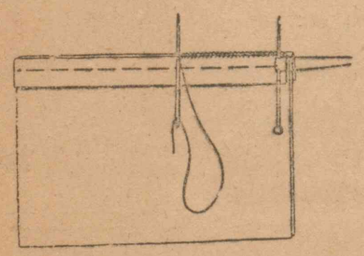
(二) 被服の修繕・更生・新調の計画

＊ 被服を十分活用させるには，どんな方法があるか。

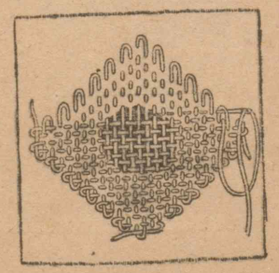
手ぎわな修繕によって被服の寿命を延ばし，又は使用できないものを適当な繰りまわしによって更生し，その後に新調を考えるようにする。

繕い方　更生の場合は，布のはぎ合わせ，穴つぎ，色紙つぎを施す場合が多い。下の図は，そのいろいろな場合を示したものである。

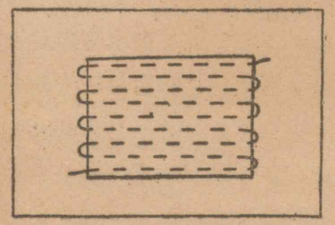
目立たぬはぎ方の例

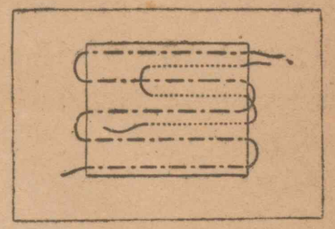


くつ下などの穴つぎの例



色紙つぎの仕方

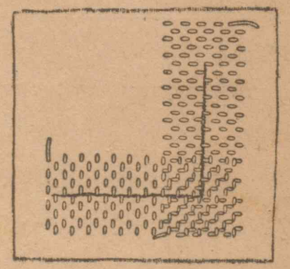




毛織物類のつぎの仕方

穴のふさぎ方の例

かぎざきつぎの例



更生　少ない被服をお互に譲り合って，これを美しく着て行くには，適当な繰りまわしの手数を惜しんではならない。工夫すれば捨てるつもりのメリヤスシャツが，りっぱなくつ下カバーになったり，重くて不便な帯心がたび底に，側は胴着になって重宝することもある。繰りまわしは，家族の持ち物，職業，性別によって，それぞれ異なるので一定しがたい。

＊ セルのひとえ長着，木綿がすり，ゆかたの更生利用について考え，実例について話し合おう。

＊ これらの更生に当って，どのような注意が必要か。(a) 製作について，(b) 材料の適否について。

新調　衣服材料を求めるのに，正しい認識も判断もなく，せいた

くや虚栄心から，「ただ高價であるからよい品であろう。」などと選ぶのは，最も戒めなければならないことである。又，一方安いからといって，その質や利用の目的も考えない時は，かえって不経済に終ることさえある。私どもの無思慮な選択は，ともすると，利益本位の生産者によって，ただ賣れ行きのよいことを目当てに生産され，國の経済建て直しに妨げとなる場合があるから，注意が肝要である。

＊ 次の表は，世界のおもな繊維の産額の百分率であるが，このうちわが國で生産されるものは何か。

品名	綿	羊毛（精練）	亞麻	大麻	黄麻	人絹	スフ	生糸
百分率	62.6	7.7	5.2	6.3	11.7	4	2.1	0.3
			23.3			6.1		西紀1937年調

新調する時は，家庭の経済はもちろん，國内の経済狀態をもよく知って，商品に対して正しい態度でのぞむことが大切である。

物は豊富な時には，その市價は安く，不足な時には高くなるのが常である。わが國は，最も被服資源に乏しく，一般に高價である。これを安價に求めようとするならば，できるだけ新調をさしひかえることである。需要が多く生産が間に合わなければ，價格は当然引き上げられる。しかも，現狀は資源の激減で物價は高騰している。私どもは，この現狀をよく理解し，物價の安定に協力しよう。そして，健全な衣服生活の心構えを持ち，正しい判断と理解をもって，その年度内に，ぜひ必要な被服の種類と数及びその壽命を調べ，新調の計画を立てなければならない。

3. 被服の材料は，どのように選ぶか

被服材料を選ぶには，その被服の目的に合うように考えることが

必要である。一般には被服材料の色と柄，地合いの美しいものを選ぶことに熱心で，材料の持つ科学的な性質を考えて，用途に適切なものを選ぶということには，関心がうすいようである。私どもは，被服材料について科学上の知識を一層深く修得して，美と共に衛生・経済にかなった材料を選定するように努めよう。

(1) 被服材料にはどんなものが使われるか

被服の材料のうち，最も重要なものは織物・編物（メリヤス）で，その他いろいろのものが使われている。

織物は原料の繊維を糸にし，織って布とし，染色・仕上げの整理をしたものである。

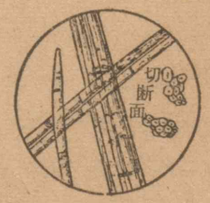
＊ 被服材料を知っている限りあげ，それを適当に分類してみよう。

織物・編物などの原料の繊維には，植物性と動物性とが多く用いられる。この二種は，性質が違うので，被服の用途にも，洗たくするにも，又，しまっておくにもその性質に適した取り扱いをしなければ，地質を損じたり，虫害を受けて長く使用することができない。

顕微鏡で各種繊維の形を見よう。

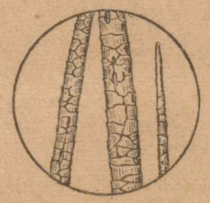
綿

亞麻



絹

羊毛



ビスコース人絹

＊ 各種繊維の長さはおよそどれくらいか。

＊ 各種繊維はどんな元素からできているか。

＊ 生糸と練絹とはどう違うか。
＊ 人絹にはどんな種類があるか。
＊ ステープルファイバー（スフ）は，どうしてつくるか。
＊ 世界のおもな被服用繊維の産地を調べてみよう。

(2) 糸はどのようにしてつくられるか

絹・人絹のような，きわめて長い繊維は，そのまま数本集めれば糸になるが，綿・羊毛・スフ・麻などのように短い繊維は，よりをかけて長く糸につくる。これを紡績糸という。麻は繊維が相当長いが，やはり少しよりをかけて糸にする。

糸には片より糸（單糸）といって，左よりか右よりか一方だけのよりをかけたものと，諸（もろ）より糸（諸糸）といって，片より糸二本以上をより合わせて一本としたものとがある。

諸より糸には特に強いよりをかけた強より糸（ちりめんの横糸）があり，太さの違う糸をより合わせたり，一方を強く引き一方をゆるめてより合わせたり，いろいろ違った糸もつくられる。糸の太さ・よりで地合いの違った織物ができるのである。

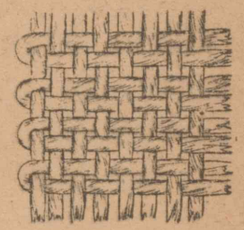
＊ 片より糸と諸より糸と，どちらが光沢があり，又強いか。
＊ 羽二重とちりめんと糸のよりがどう違うか。
＊ 裁縫の糸は，どのようにつくられているか。

(3) 織物にはどんな種類があるか。その組織はどうなっているか

織物を原料繊維によって分類すると，そのおもなものは，綿織物・麻織物・絹織物・毛織物・人絹織物・スフ織物，又はこれらの二種以上の交織物である。これを組織の上から分類すると，平織・あや織（斜紋織）・しゅす織・変化織・からみ織・重ね織・紋織・添毛織などであるが，その基本的なものは平織・あや織・しゅす織である。

(イ) 平織　平織は，織物の組織中最も簡單で，縦糸・横糸の交叉（さ）が最も多いから，光沢は少ないが，縦にも横にも丈夫である。実用向きの織物の大部分は，この織物である。

平織



平織でも繊維と糸のつくり方及び縦糸・横糸を変えたりすると，いろいろな地合いの織物になる。

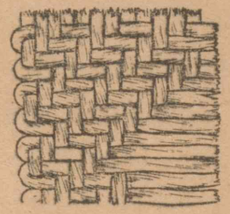
＊ 平織組織による織物の例をあげてみよう。

(ロ) あや織　2本おきか3本又は4本おきに交叉（さ）するので，織り目に斜線ができる。平織よりは光沢があって柔かい。組織点によって片面あやと両面あやとがある。

サージ・あや絹・クレバネットなどは両面あやで，小倉・細あやなどは片面あやである。

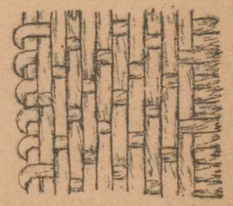
両面あや織

片面あや織



(ハ) しゅす織　縦糸が緻密（ち）で，5本以上に一つの交叉点をつくる。縦糸が密に並び，長く浮いているので，最も光沢が多い。

しゅす織



(4) 織物の柄は，どのようにつくられるか

織物の柄は，織り方によって表わしたものと，染色によって表わしたものと二種ある。和服は，從來形の上の創作が少なく，ほとんど個人差がない。昔から発達して來た精巧な染織模様は，千差万別である。洋服の特色が形にあるのに対し，和服の特色は染織模様にある。

染色には糸で染める場合と，織物にしてから染める場合とがある。染色は染料と染め方が適当でないと，染め色が弱いばかりでなく，布の耐久力を減ずることがある。衣服材料の染色は，用途に適するために，又は取り扱いのためにも，相当の強さが必要である。

(5) 染色物の仕上げには，どんなことがなされるか

染色物は，仕上げにのり付けをすることが多い。のり付けは，毛ばを伏せ，重み・厚さ・かたさなどを與えるためである。しかし，こののり付けのために，光沢・彈性・通氣が悪くなり，熱に焦げやすく，濕氣を吸收しやすく，かびが生じやすい。スフ・絹・人絹などに，重さを増すためにのりを多く付けたのは，布の耐久性を損じる。この他防水加工，シルケット加工などいろいろある。防水加工は，コート地などに施すことが多く，ゴム引き布もその一例である。綿ポプリンは，シルケット加工をしたものである。

(6) 衣服材料の性質と用途に適する材料の選び方

(イ) 織物の伸びと強さ　糸も織物も，引っ張ると必ず少しは伸びるものである。その伸びは，ある程度では彈性の伸びで，もとの狀態にもどる。その彈力の限度をこえた場合は，もとの狀態に復さない。布の一部分だけ伸びきった場合には，その部分だけたるむことになる。実際衣服を着た場合に，ひじ・腰・ひざなどのところで布がふくらむのはこのためで，その部分の糸が細くなり，布が薄くなる。

織物の強さは，1本の纖維の強さ・長さ・太さ，糸につくる時の纖維の並べ方，よりのかけ方，縱糸・横糸の選び方，織り方・仕上げの方法，特別な加工などの諸條件が加わってできる。

纖維で強いのは絹で，次に綿・亞麻・人絹・羊毛の順序である。伸びの最も大きいものは羊毛で，絹・人絹・綿・亞麻の順序である。糸になるとよりの多いものが強く，又，よく伸びる。しかし，あまりよりが多過ぎると，強さが低下する。

織物をしらべるには，縱・横・斜から引っ張ってみたり，指先で丸く押し出してみたりする。

＊ 古布を利用する時，その強さをどうしてしらべるか。

各種纖維は，かわいている時と濕っている時とで，その強さが違う。

木綿は水に浸すと約10%強くなり，彈力性は25%まで増す。それで洗たくの度数の多い衣類に適す。

麻は木綿と同様，水にあうと強さを増す。

絹・毛は水に多少弱いが，水に浸すと伸びは多くなる。

人絹は水にあうと，約50%の強さを失う。しかし，かわけばまたもとの強さになる。

(ロ) 織物の摩擦に対する強さ　衣服は摩擦によって損じることが多い。摩擦に強いものは，木綿・毛のように糸よりが強く，平織のように組織点の多いものである。人絹・麻のように，よりの少ないもの，組織点の少ないしゅす織などが弱い。又，大しぼの布面に凹凸の多いものは，その凸部が損じやすいものである。

摩擦に対する強さをしらべるには，布を縱・横・斜からしごいてみて，糸の寄り，糸かえりの程度を見る。

(ハ) 吸濕性・吸水性・放濕性　吸濕性とは，大氣中から自然に濕氣を吸收する性質をいう。各種纖維の吸濕量は，普通の大氣中では羊毛が最も多く，綿が少ない。又，温度がのぼって濕度が飽和の狀態になった大氣中でも，ぬれた感じがなく羊毛・絹が多い。人絹・スフが最も少ない。

吸水性とは，水を吸收する性質で，これをしらべるには，各種纖維の布の上に水滴を落してみる。

麻・絹・人絹は纖維が長く，平行しているので吸水が早い。しかし，これらの布は，薄地で毛ばが無いので，その吸水量は少ない。綿布・毛織・スフは吸水がおそい。

放濕性とは，自然に大氣中に濕氣を放出する性質をいう。

私どもが，各種の纖維の衣服を着た場合について考えてみよう。

絹・麻・木綿は濕氣の放出が早いので，かわく時急激に体温を奪う。從って，冷たく感じる。

羊毛は，吸濕も放濕の速度もおそいので，かわく時体温を急に奪うことがない。從って，あまり冷たさを感じない。

＊ 海水着に毛編みのものが適するのはなぜか。

(ニ) 耐熱性　織物にアイロンをかけることが多いが，アイロンの熱の限度は，濕氣を與えた場合，毛は 189～240°C，木綿・麻・絹・人絹は 224～257°C である。

(ホ) 熱の傳導性　衣服の冷暖の感じは，纖維の熱の傳導度とも關係がある。衣服材料の熱の傳導は，原料の種類・より・織り方に關係することが多い。織り方が柔かくて，比重の輕いものが熱の傳導が小さい。麻・人絹は傳導度が大きいので冷たく，絹・毛は小さいので暖かい。木綿はその中間である。

(ヘ) 含氣性　織物は纖維と纖維との間，糸と糸との間，織り目の間に空氣を含んでいる。これが含氣量である。織物は，含氣量の多いほど暖かい。熱傳導度の大きい織物でも，含氣量の多い織物にすれば暖かい。冬は含氣量の多い布がよく，夏は少ないのがよい。

＊ 含氣量の多い布は何々か。又，最も少ない布は何か。

(ト) 通氣性　皮膚の表面からは，水蒸氣や炭酸ガスなどが排泄(せつ)されるので，衣服にはこれが流通するように，通氣性が必要である。ことに夏服には，体温を発散させ，外氣を入れるために最も必要である。通氣性は，織り目のあらいものほどよい。

＊ のり剤やゴム引き布などの，織り目をふさいだものは，着ていてなぜ不快を感じるか。

＊ はだ着に適する布は何か。又，その適する理由を説明せよ。

(チ) 熱線の吸收と透過　太陽の熱線が被服に投射すると，一部は常に吸收され，一部は透過し，一部は反射される。吸收された熱線は布を暖め，透過した熱線は直接からだを暖める。夏服は，熱線を反射する衣服地がよく；冬は熱線を吸收するものがよい。

＊ 防暑服には，どんな布が適当か。

(リ) 汚染性　衣服は外界からほこりや細菌が付き，皮膚からは脂肪や汗が出てよごれる。このよごれは，毛ば立っている布ほど付きやすい。纖維では絹・人絹・麻などがよごれが目立つ。しかし，のり付けしたなめらかなものは，よごれにくいものである。

＊ よごれた衣服を着れば，なぜ暖かくないか。

(ヌ) 可塑性　可塑性とは，布に濕氣を與えてアイロンをかけ，一定の形にしてかわかすと，その形がある期間保たれる性質をいう。これは形を整える上に大切である。可塑性は，羊毛が最も強く，人絹は最も弱い。

(ル) フェルト性　フェルト性は，羊毛及び類似の獸毛纖維に特有な性質である。これはせっけんの温液の中などで激しく操作すると，纖維が互にからみ合い，容易に分離しがたいのである。

＊ 折りひだのスカートには，どんな布がよいか。

＊ 毛織物にアイロンをかける時，濕氣を與えるのはなぜか。

(ヲ) 酸・アルカリに対する布の性質　織物によっては，酸又はアルカリの作用によって，その染色や地質を損じるものがある。これらは洗たくの際，特に注意しなければならない。酸に強いものは羊毛で，これに次いで絹・麻・木綿・人絹の順序である。

＊ 汗の成分は何か。汗のために最もいたみやすい織物は何か。

衣服材料には，この他にだらりとたれるちりめん，べたべたとからだに密着する薄絹，あるいは，こわばった厚地麻布や，伸縮性の強い毛のメリヤスなど，いろいろな地合いがある。

衣服を選択するには，以上あげた諸性質を知って，平常着，活動着には丈夫なもの，晴着にはしなやかなものを用いるようにする。又，夏は涼しく，冬は暖かい布を用いるように，それぞれの用途に適し，經済的に選ぶことが大切である。

單元2. 平常着の製作

單元の目標

1. 自分の平常着を調製する知識を習得し，その製作技能を養う。
   (1) 自分の体格や性格には，どんなデザインのものが似合うかを知る。
   (2) 被服着用の習慣や作法を身につける。
   (3) 流行について正しい認識を持ち，これに善処する。
   (4) 平常着としてブラウズとスカート，又はワンピースドレスを選択調製する技能を養う。
   (5) 製作・着用記録をつくり，経済的な研究をし，よい手入れの習慣を養う。
2. 家族の平常着を調製する技能を養う。
   (1) ひとえ長着，又はあわせ長着を選択調製し，活動・能率について比較検討する能力を養う。
3. 下着を保健・整容上から正しく選択する知識及び調製する技能を養う。
4. たび・くつ下・手袋など(主として編み物)を選択調製する能力を養う。

わが國は,窮乏した経済の建て直しや,文化國家建設の途上にあって，家庭も社会も多事多難である。衣服においても，この生活にかなったものが望ましく，從って，活動的な洋服形式が理想である。しかし家庭は，家族の樂しい休息の場所でもあるから，家庭内の衣服は，くつろぐ場合を考慮しなければならない。それで，私どもの平常着には洋服を，家庭内の休息着としては從來の和服を取り上げ，この二つの製作技術を学び，よりよいものを創作しよう。

1. 私どもの平常着

私どもの平常着を，なるべくありあわせで，自分によく調和するようにデザインしよう。そして自分のからだによく合った着心地の

よいものを，早く美しく丈夫に仕立てよう。これを着てみて，よい点・悪い点について記録し,今後の参考にしよう。なお,着用回数・手入れなども記録して耐久力をしらべよう。

(1) デザイン

衣服をデザインするということは，衣服の形・線・色・材料を，着る人（年齢・職業・身分・個性）に合うように，又，着る場合（通学用・家庭用・就寝用など）や季節に適するように，保健の上から，調和美の上から，経済上から，又，作法にもかなうように吟味して計画することである。

(イ) 自分の個性を観察し，タイプを知ろう

個性はそれぞれ複雑な内容を持っている。これを次のような表の各欄に○印をつけ，その多いところでタイプを知るのも便利である。

部分／タイプ	体格	姿勢動作	顔だち	皮膚の色	表情	趣味	全体の感じ（性格）
丸型の沈静型	細い 小柄 丸型	曲線的 沈静的 のろい	丸型 柔かい	白 青み	かわいい ひかえがち 頼りがち	保守的 古風 じみ	しとやか，あどけない 飾らない，頼りがち 弱々しい，情緒的
角型の活動型	太い 大柄 角型	直線的 活動的 敏捷（びんしょう）	角型 きつい	薄茶 赤み	あからさま 積極的 強い	進取的 新奇 はで	激しい，力強い 活動ずき，率直 元氣な，意志的

(ロ) タイプに應じた選び方

衣服には輪郭線，構造線，デザイン線があるが，丸型のタイプの人にはわん曲線を主として使ったものを選び，角型のタイプの人には，直線を多く使ったものを選ぶと，その個性を一層強く表現し，調和したものとなる。27 ページ (4)のアフタヌーンドレス，26ページの(1) (4)のブラウズは，主としてわん曲線を使ったデザインで，丸型のタイプの人には調和しやすい。又，27ページ(1) (2)のドレス，

種々なブラウズとスカートの例

26 ページ(3)のブラウズは，角型のタイプを表現したデザインである。これらと違って 27 ページ (3) のドレスは，輪郭線と構造線がわん曲で丸型の感じであるが，丸顔の輪郭を目立たせ，一本調子になるのを避けるため，えりぐりとヨークに角型を使って，強みを添えたデザインである。27 ページ(1)のドレスは，ポケット・そで口で角型のタイプにやさしみを添えている。このように個性のタイプ

種々なワンピースドレスの例

を強調する線・形を使ったり，あるいは弱め隠す線・形を，適宜に配置したりして，個性を美しく表現するように，デザインするのである。

(ハ) スタイル・デザインに適した材料の選択

27 ページ (1)(2)(5) の直線的な平常着のスタイルは，綿布・薄地

毛織など，割合に厚みとかたさを持った布が適し，26 ページ(4)の晴着用スタイルは，軽く柔かい絹布が適している。

＊種々なスタイルを見て，それぞれどんな布が適するかを考えよう。

(ニ) 個性，はだ色，用途に適する色の選択

皆でありあわせの色布を持ち寄り，首・肩をおおうように当ててみて，5 m 離れたところから観察し，その適否を見よう。なお，色には色合い，明度，彩度の三属性があるから，この三方面から観察し，最もよく似合う色から 4，5種くらい選んでおこう。

＊どんな色が顔を白く見せるか。又，赤みを目立たせて健康に見せるであろうか。反対に顔を青く見せる色はどれか。

＊からだを小さく，引き締った感じで，沈静型に見せるのはどんな色か。

＊からだを大きく，軽やかに，活動型に見せる色はどんな色か。

＊夏の通学服に適する色は何か。又，冬はどうか。

＊家庭着に適する色は何か。

＊自分の好む色は，似合う色と一致しているか。

(2) 私どもの平常着にふさわしいデザイン

通学用としては，活動に何の支障もない形で，しかも多少の成長に融通のきくスタイルでありたい。あまりからだに密着したものや裝飾的なゆるみの多いものは，避けなければならない。特にスカートの幅が狭く，胴の密着したものは，足の運動を妨げ，手の運動を不自由にするものである。

又，形・色・材料は，日常の手入れ・洗たく・繕い・アイロンかけなどが簡單にできるものが望ましい。あまり，折りひだの多いものなどは，洗たくにも仕上げにも手数がかかり，材料によっては，その質も早くいたむ。前ページの図の(2)及び 26 ページの(2)は，大体通学服としての條件を備えたものといえるであろう。

＊最も布が経済で，しかも学生らしさを表わした形を描いてみよう。

(イ) 26 ページのデザインについて観察しよう

(2) (3) (5) は，ブラウズの上にスカートをはいている。この服裝は，スカートと同じ布のジャケットを着て，スーツ(三つぞろい)にするのを略したもので，活動的な略裝である。ブラウズはこのように，スカートの下に着るのが普通である。(タックインブラウズ)(1) (4) は，スカートの上に着るオーバーブラウズである。普通のブラウズは，スカートの下に着るので，形が下着に近いが，オーバーブラウズはスカートの上に着るので，上着に近い形である。従って(2) (3) (5) よりも，外出着に適しているともいえるのであるが，夏の通学用には，その点はいずれでもさしつかえない。

＊オーバーブラウズとタックインブラウズとは，どちらが涼しいであろう。

ブラウズとスカートの地質・色・柄の調和

ブラウズとスカートを，両方無地にする時は，配色で調和するが両方に柄物を使う時は，両方が同じ力であるから調和しない。一方を無地に，一方を柄にすれば落ち着いて調和する。

スカートは無地にする時も柄物を使う時も，スカートを暗い色にしてブラウズを明るい色にすると，下の方が重く感じられ，落ち着きがよく，つりあいがとれる。又，スカートはよごれやすいが，暗い色ならばよごれも目立たず，腹部・腰部が細く見える。明るい色のスカートには，ブラウズはあまり暗くない色を使うとよい。

スカートはまた，丈夫な地質で，縦横に引っ張られてもいたみにくく，しわにならないものがよい。彈性の伸びはよいが，伸びてもとにもどらない地質は不適当である。スカートは，すそ口が廣く通風がよいので，夏季用でもサージのような厚めの毛織や綿布がよい。

ブラウズの色は，顔色を健康に見せるものを，スカートとの調和に注意して選ぶ。スカートとブラウズの反対色配合は，強過ぎて調和しないことがあるが，スカートはブラウズより面積の大きい点で

調和することもある。しかし類似色が最もよく，同色の濃淡もよい。又，白のブラウズならば，どんな色のスカートにもよく調和する。

(ロ) 27 ページのデザインについて観察しよう

(2) は胸からスカートに続く2本の直立線が，身長を伸び伸びと見せ，この2本の線の距離が腹部では狭く，胸とすそで廣がっているので，わき線を目立たせ，同時に緊張みを表わしている。背と胸のギャザーと，すその廣がりは活動に適している。通学服としては，なるべくそれにふさわしい色を選び，カラーとバンドに白を配色させるとよい。これは單純で，すかすがしく，日々に着てあきない美しさがある。もし，青系統を使う場合は，その餘色で顔が黄色みを帶びるから，カラーを白にして，これをさえぎる役目をさせるとよい。

(1) は，しぶがあまり目立たず落ち着いた色であれば，通学用にもよい。これは，しぶが細く，單純過ぎるので，興味を添えるために，ポケットを横布に使ったものである。

※ このえりぐりは顔の形をどう見せるか。

(3) は，共布をギャザーしてヨークに付け，共布の結び帶を付けたものである。 ボタンもなく，この布だけを生かしたデザインであるが，復雜な配色の柄物は，こうした單純なデザインが適する。これは晴着に近いもので，外出着などによい。

※ 無地のドレスと柄物とは，どちらがからだの輪郭をはっきり表わすか。

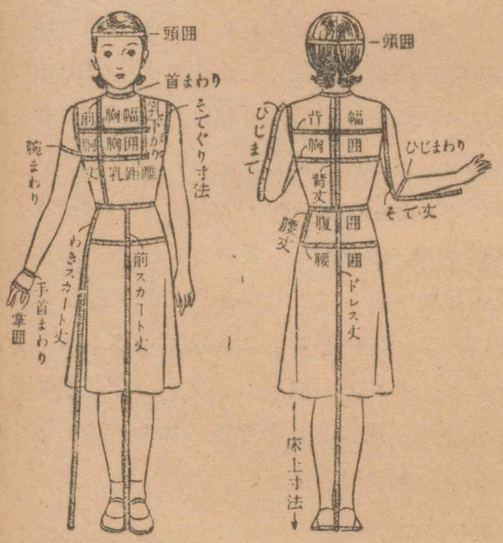
(4) は，アフタヌーンドレスによいデザインで，これを通学用にするのは最も不適当である。この丸型ヨークは，顔に注意をひきやすく，ギャザーの飾り布と，目立つ裝飾的なバックルが，興味の集中点となっている。

※ このような丸型のえりぐりとヨークのものは，どんな顔に似合うか。

(5) は，キモノスリーブの簡單服である。大柄のゆかたなどでつくるのもよい。用布も少なく，裁縫・洗たくも簡單で，家庭着によい。

(3) 原型のつくり方

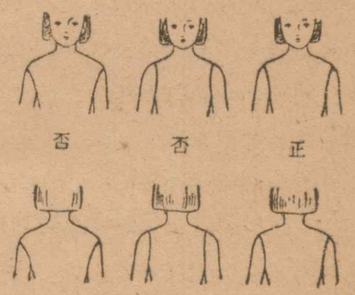
(イ) 採寸 採寸する時は，つくる服の下着として必要とするものは全部着て測る。又，くつもはいて測るとよい。



採寸は測る位置を見定めることが大切で，幾度測ってもその寸法が同じであるように，正しく測る練習が必要である。測る都度，寸法が違うのは正しい測り方とはいえないから，こんな場合は標準寸法を参考としたり，ありあわせの服を着て，その寸法の適否をしらべ，測った寸法を適当に直すのもよい。又，採寸の時に，そのからだの特色を見ることも大切である。

頭囲 最も太いところを測る。頭を通すあきに必要である。

首まわり 首の付け根を測る。胴原型のえりぐり寸法をきめるのに必要で，この寸法から割り出した寸法は最小のものである。



胸囲 乳の最も高いところで測る。

腹囲 腰骨から上で，バンドを自然に締める位置で測る。

そでぐり 腕と胴の自然の境

界線に定めることが必要である。その定め方は，服の上からピンで線になるように刺してみる。そでぐり寸法は，手を下げたままテープ尺をわき下から肩へまわして測り，これに5cmのゆるみを加える。やせた人はゆるみを 7cm ぐらいにする。

胸幅・背幅　そでぐり線の深さの中央で，左右のそでぐり線の最も距離の狭いところを測る。この寸法は廣過ぎても狭過ぎても，形が悪い上に非常に着心地が悪いから，正しく測らなければならない。簡單な方法としてありあわせの服を着てみてきめる。

背丈　後ろ首まわり線から腹囲線までの丈である。バンドを締めてみて正しい位置をきめる。

前胴丈　首まわり線の肩山から乳を通って腹囲線までを測る。(これは後ろ中央から測って，後ろえりぐり寸法を引いてもよい)

乳下がり　前胴丈の肩から乳までの寸法。

乳距離　左右の乳の間を測る。

腰丈　腹囲から腰の最も太いところまでの間を測る。およそ 17cm で，特に太った人は22cmくらいある人もある。

腰囲　腰丈の位置で水平に測る。

そで丈・ひじまでの丈　手をひじから少し前に曲げ，肩先からひじまでの丈と，手首までのそで丈を測る。

腕まわり・ひじまわり・手首まわり・掌囲　腕まわりは手を下げて，腕の付け根で水平に測る。

ドレス丈　後ろ首まわり線から床までを測る。

前及びわきスカート丈　それぞれ腹囲線から床までを測る。後ろスカート丈は，ドレス丈から背丈を減じた寸法である。

床上寸法　ひざ下くらいがよく，普通 3cm 内外である。

また上　板のいすに腰かけて，腹囲線から板までを測る。

わきズボン丈　腹囲線からかかとの床上 2cm までを測る。

(ロ)　婦人標準寸法（寸法中の身長はくつなしで測ったものである）

名　称	小	並	名　称	小	並
身　長	148	152	そ で 丈	52	53
頭　囲	57	58	ひじまでの丈	29	30
首まわり	35	36	腕まわり	23	25
胸　囲	79	82	ひじまわり	28	29
腹　囲	65	68	手首まわり	15	16
背　丈	35	37	掌　囲	21	22
腰　丈	17	17	ドレス総丈	127	132
腰　囲	86	88	わきスカート丈 } 後ろスカート丈 }	97	100
そでぐり (ゆるみ5cm加えたもの)	39	41	前スカート丈	96	101
			床　上	30内外	
胸　幅	32	33	スカート上がり丈	67	71
背　幅	32	33	わきズボン丈 (かかとから2cm上まで)	95	99
前 胴 丈	37	39			
乳下がり	23	24			
乳 距 離	16	17	上 衣 丈	55	58

これは，おとなの普通と小の場合を取り上げたものであるから，自分の体格と考え合わせて，どれを取るかをきめよう。

普通の体格の人は，背幅・胸幅が同じで，背丈より前胴丈が長く，後ろとわきスカート丈は同じで，前スカート丈は少し短くなるが，体型によっては，次のような結果が出る。

ねこ背の人は，背幅が廣く，胸幅が狭く，前胴丈が短い。

そり身・はと胸の人は，背幅が狭く，胸幅が廣く，前胴丈が長い。

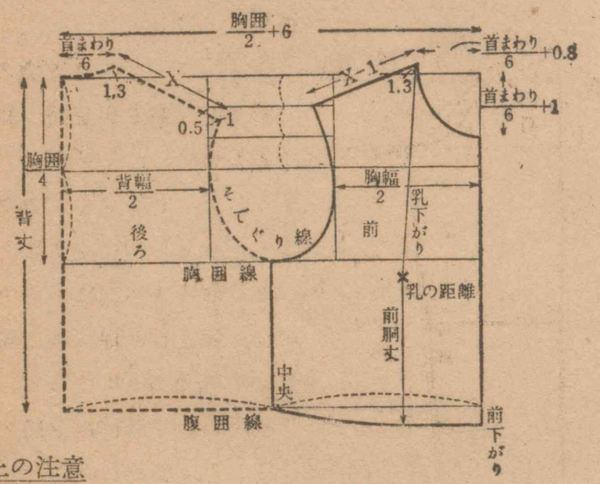
腹部の大きい人は，前スカート丈が，後ろ・わきと同じか又は長い。

腹部の細い人は，わきスカート丈が，後ろより長い。

太っている人は，胸囲・腹囲・腰囲の差が少ない。

やせ型は，肩下がりが少なく，えりぐりが小さく，特に腹囲が細い。

(ハ) 胴の原型



製図上の注意

a　$\frac{胸囲}{2}$に6cmのゆるみは多い方で，家庭着や通学用に適す。最少は3cm，最大は7cm，下着類は4cmぐらいがよい。

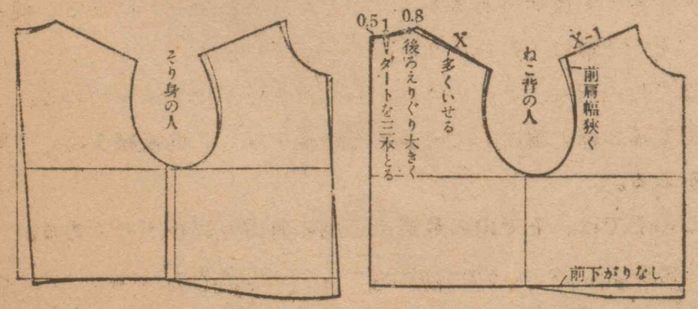
b　えりぐりは前後合わせて$\frac{首まわり}{2}$になるよう，前中央で直す。

c　そでぐり線の長さが，採寸と違う時はわき下で直す。

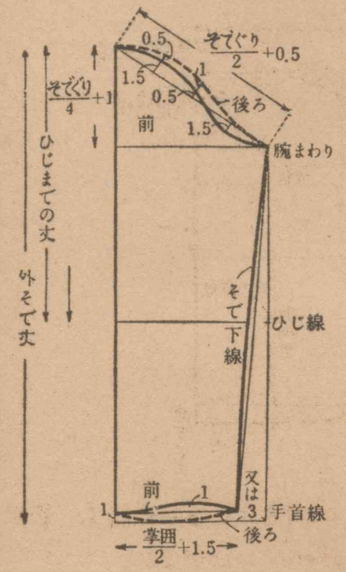
d　背丈と前胴丈の差を，前下がりとしてダートの深さにする。

e　わき線を，中央から後ろへ1cm寄せると姿勢よく見える。

f　前後の肩幅の差は，肩のあたりの形に合わせるためである。



(ニ) そでの原型



製図上の注意

a　$\frac{そでぐり}{4}$＋1cmは普通のそで山であるが，最も山を高く細いそでにする時は，$\frac{そでぐり}{4}$＋2.5cmにする。又，シャツやブラウズなどは$\frac{そでぐり}{4}$−1cmにすることもある。

b　そで幅のきめ方は，そで山の端から，腕まわり線へ斜に向けて，$\frac{そでぐり}{2}$＋0.5cmに取る。

c　前後のそで付け線を図のように引く。そで山の高いのは，わき下のくりを前後とも深くし，低いのは浅くくる。前後を続けて，そで付け線を測り，胴のそでぐりより1〜2cm長いのがよい。これはそで付けの時，山のゆるみになるのである。このゆるみは，そで山の高いほど多く，低いほど少なくてよい。最大は2.5cmぐらいである。

d　そで口を詰めて，そで下線が斜になっているのは，実際には，ひじの曲りと反対であるから，ここがゆるんでしわになる。従って，そで下線はこれ以上曲げないのがよい。

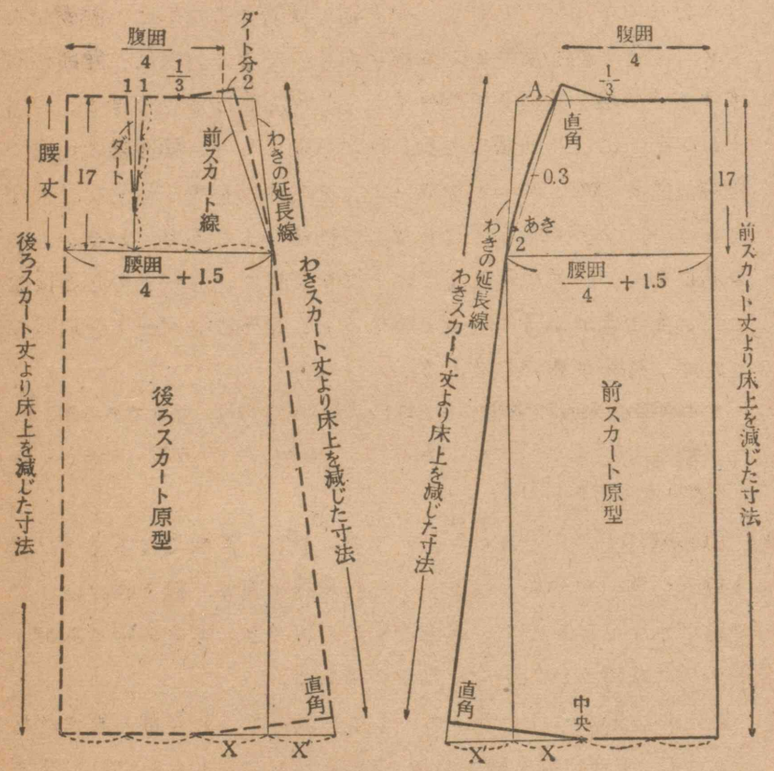
e　そで口の線は，そでの外側が長くなるように丸みをつける。

f　そで幅の線を輪にして，それぞれ線を写し，前後続きにして型紙を取る。

g　このそでは，そで山の最高点と胴の肩山とが合うのである。

＊ 腕囲のゆるみと，そでぐりの深さと，そで山の高さと，わき下のくりの関係を，着た服でしらべてみよう。

(ホ) スカートの原型



前スカート製図上の注意

a　わきで布の斜が伸び，幅が詰まるので，$\frac{腰囲}{4}$に 1.5 *cm* のゆるみは，最少のゆるみとみてよい。

b　すそ幅を$\frac{1}{3}$廣げたのは，このスカート丈として，足の運動にさしつかえない廣さで，最少のすそ幅である。約 32 *cm* である。

c　腹囲にゆるみを加えないのは，インサイドベルトを用いて，正しい腹囲寸法に合わせてつくるものと考えたものである。

d　腹囲と腰囲の幅を定め，その間のわき線を引く。この線を，すそまで延長して，すそ幅とするならば，わき線は自然の線になり，むりがなくてよい。しかし，すそ幅が廣過ぎるために，腰囲から下を，すそで約$\frac{1}{3}$廣げてわき線を引くのである。次に，腰囲から，すそまでの線を腹囲まで延長すると，Aという差ができる。このAはダートになる寸法である。Aが多過ぎると，腰囲線の位置で極端に曲るので，ダートを取って，その曲りを少なくしなければならない。2.5 *cm* 以下ならば，腹囲線のところで，わきを，わき線に対し，直角になるように上げただけで，ダートの必要はないが，その差が 2.5 *cm* 以上であると，後ろにはダートを取らなければ，格好が悪いのである。

＊わき線が腰囲線で極端に曲らないようにするのは，なぜであろう。わき線が，すそまでまっすぐに開いている場合にダートを取ったらどんな格好になるであらう。

e　腹囲線は$\frac{1}{3}$のところから，わき線に対し，直角になるように仮り線を引き，やや丸くなるように腹囲線を直す。縫う時には，この線が水平になるので，腹部にゆるみができ，すそのゆるみが，前中央に配置され，平均になるのである。

f　わきの上部から，わきスカート丈を測って，わき線と直角になるように，すその仮り線を引き，中央あたりから丸みをつけて直す。

後ろスカート製図上の注意

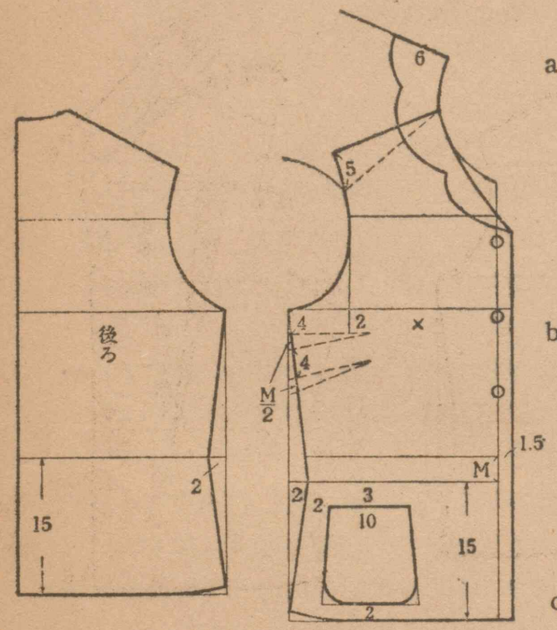
前と違う点は腰囲から上である。後ろわきは，後ろダート分を，2 *cm* だけ廣くして，わき線を引き，腰幅の$\frac{1}{3}$のところで，ダートの線を引く。腹囲と腰囲の差のはなはだしい時は，2本にしてもよいが，普通は，2.5 *cm* 以下ならば，1本にする。

附記

わきの縫い目は，後ろへ2*cm*寄せると，前から見た時に，わきの縫い目が見えなくてすっきりする。

(4) ブラウズとスカート

(イ) 26ページ(1) のオーバーブラウズ（ローリングカラー）



型紙の取り方

a　オーバーブラウズの丈は，上衣丈と同じか，3 *cm* くらい短くする。身長によって加減する。

b　ダートを，わき下から乳のところに向けて取る。Mの寸法が 2 *cm* 以下の時は1本にする。

c　前えりぐりは，図のように原型の胸線ぐらいまで下げる。但し，顔の形・大きさ・身長など，全体から見て適当に加減する。

d　前後とも，腹囲線のところで，幅を 2 *cm* 詰める。これは2*cm* 以上にならないようにする。これ以上詰めたい時は，乳下，背の両わきでダートを取る。

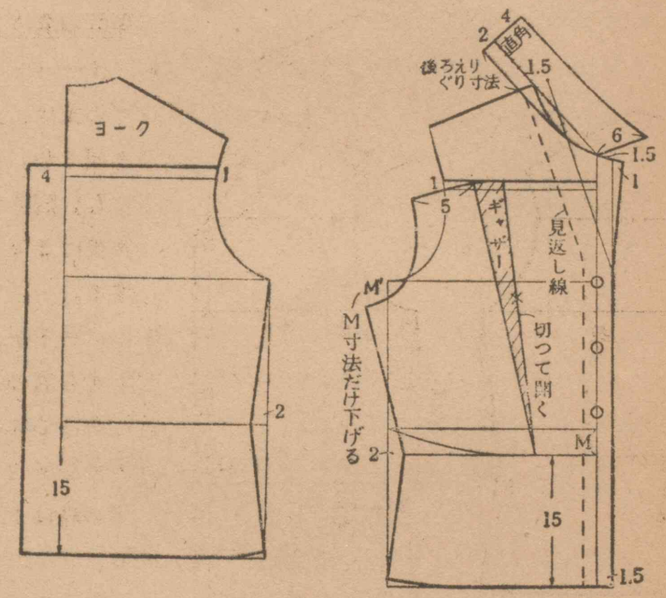
e　ポケットの口・深さは $\frac{胸囲}{7}$ が標準である。

そでは，原型のそでのひじ線と，腕まわり線との中央，すなわち $\frac{1}{4}$ そでにする。そで口布は幅 2 *cm* くらいがよい。

＊ ボタンの大きさはどのくらいがよいか。

＊ 腹囲のバンド幅は幾らにするか。適当なものをからだに当てて，身長・こえ・やせに應じて定めよう。バンド丈はどれくらいがよいか。

(ロ) 26 ページ (2) のヨーク付き開きん型ブラウズ



型紙の取り方

a　タックインブラウズの丈は，運動をした時，スカートから，すそが抜け出ないだけの長さが必要で，背丈から 15 *cm* は最少の寸法である。

b　ギャザーの分量は，布の厚さによって 2〜5 *cm* に定める。

c　ヨークは幅が廣いので，前後を肩で縫い合わせるように取る。

d　このテーラー型の折りえりは，まず斜に折り返り線を引き，折り返りの幅が廣くなるように，えりぐり線を前に延ばして幅を出す。次に前えりぐりの止まりから，前身の折り返り線に続く，えり折り返り線を引き，後ろのえり中心線を直角に出して，えりの立つ方を 2 *cm*，返る方を4 *cm*，前のえり端の幅は 6 *cm* にして，そ

れぞれ線を結ぶ。

è　前身が折り返ってえりになるので，点線のように見返しを取る。

＊　そでぐりの深いのと，浅いのとでは，わきのつれ方がどう違うであろう。

(ハ)　ヨーク付きオーバーブラウズ

夏の上衣として通学用に適している。前のヨークは肩と平行に 3.5 *cm* 幅とし，後ろは肩で 2.5 *cm* 幅として水平にし，前後の肩山を続けて取る。その他は(イ)(ロ)に同じであるから，一應，このスタイルの裁ち方・縫い方をしらべ，自分が実際縫うものに應用しよう。

＊ 後ろヨークの下に 4 *cm* ぐらいギャザーを取り，腹囲線では，そのゆるみを消すには，型紙をどのように取ったらよいか。

裁ち方

ヨークは2枚を裁ち，前の見返しは 5 *cm* くらいにする。縫いしろは全体に 1 *cm*，すそ口 5 *cm*，そで口 3 *cm*，ポケット口 2.5 *cm* にする。但し，肩・わき・そでぐり上部・えりぐり・そで下は，補正する場合を考えて 2 *cm* ぐらい取っておくとよい。

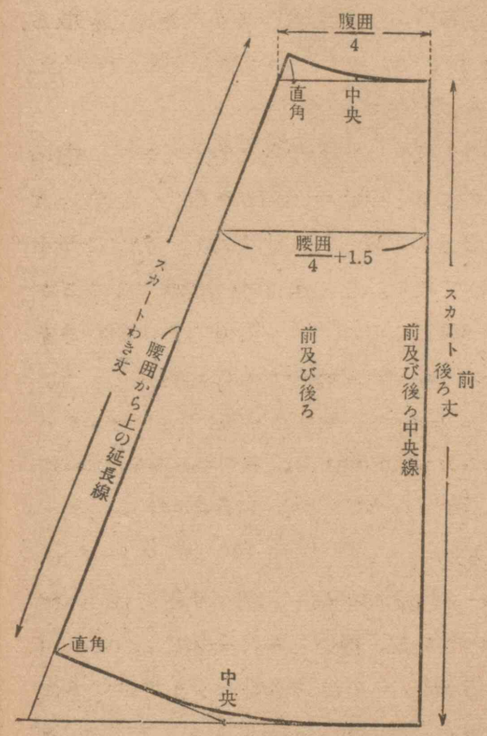
縫い方

仮り縫いは 44 ページの図のように，胴を縫って着てみて補正し，次に，えり・そでを付けてしらべ，補正する。

本縫いは，次の順序でする。前の見返し付け，わき・そで下の袋縫い，ギャザーをしてヨークで挾み付け，すそ・そで口の三つ折りぐけ，ポケット付け，そで付け，えり及びえり付け，バンド及びバンド通し付け，ボタン・スナップ付け，仕上げ。

＊　前出二種のブラウズの裁ち方・縫い方を考えてみよう。

(ニ)　27 ページ(4)のフレアスカート（わき直線）



型紙の取り方

a　腹囲と腰囲とを結ぶわきの線を，そのまますそまで延長して，すそ幅を廣くする。その幅は約 42 *cm* である。次に，前中央線とわき線とを合わせて折り，わき線の上下とも直角になるように，腹囲とすその線を直す。前後同じ型紙で，ダートは取らない。

b　これ以上，すそを廣げる場合は，腹囲とすそをそれぞれ四等分し，切りこみを入れて開く。

フレアスカートの裁ち方について

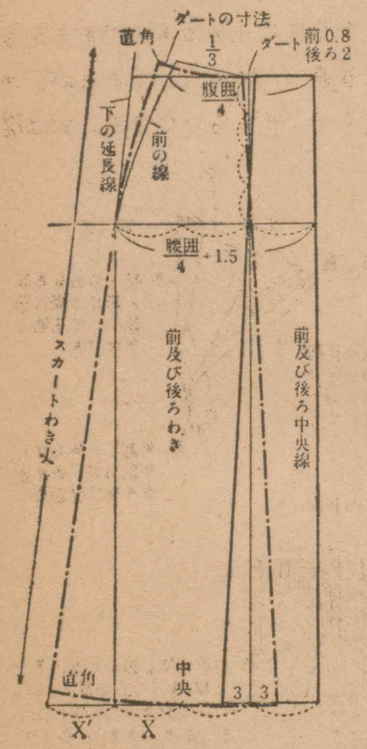
この型紙の前及び後ろの中央線に，布を正しい斜に置いて裁つと，すそ幅のゆるみが，斜のひだとなって出るので美しい。この用布は，縦横の糸の質・よりが同じのものがよく，平織・あや織などを多く用いる。和服地などの幅の狹いもので裁つ場合は，この型紙の上下を，布数に應じて等分し，一布の幅の中央が一つの型紙の中央と合うようにして裁つ。

＊ フレアスカートを経済の面から，その適否について話し合おう。

＊ フレアスカートの上衣には，どんなのが調和するであろう。

(ホ)　26 ページ (4) の六布はぎスカート

型紙の取り方



前スカートの原型を左図のように直す。

a　全体が六布であるから，腰囲線で三等分するが，これが八布はぎのものであれば，二等分となるように，布数によって等分する。

b　原型は，すそ幅が最小であるから，はぎ目の線で 3 *cm* ずつ廣げる。この廣げる分量は，薄地は多く，厚地は少なくする。この場合，腰囲でも少しゆるくするため，腹囲線から腰丈の $\frac{3}{4}$ 下がったところから廣げる。

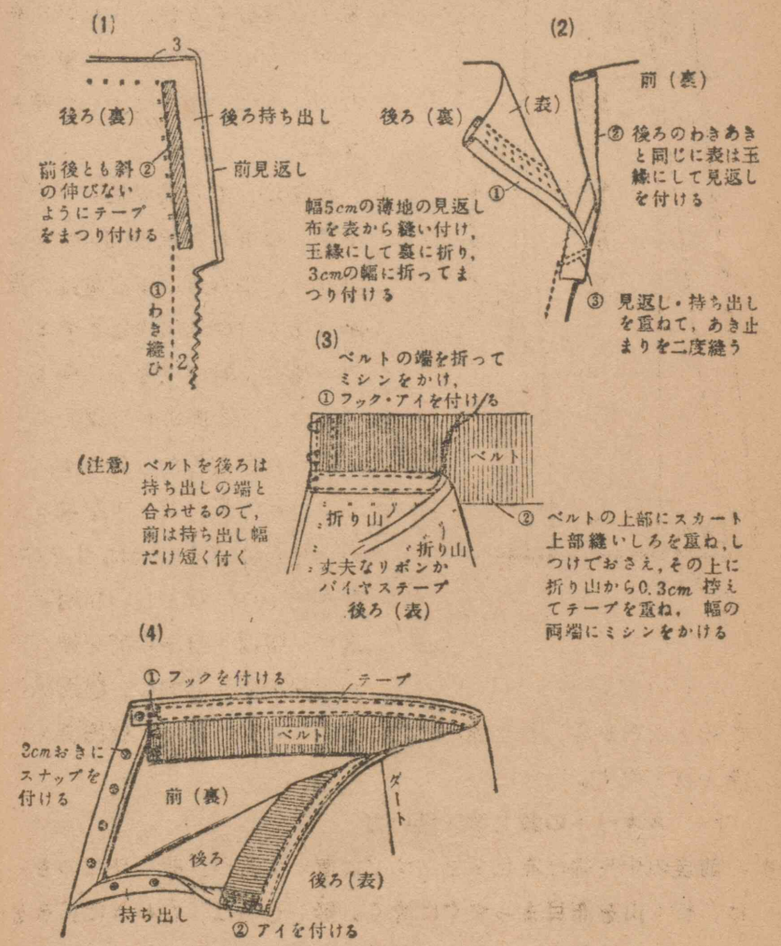
c　このはぎ目でダートを取るため，後ろは 2 *cm*，前は 0.8 *cm* をダートの寸法とし，腹囲線を廣げ，腰囲・腹囲の間を結んでわき線を引く。次に，腹囲線の $\frac{1}{3}$ のところから，わき線に対して直角になるように，腹囲線を引き上げて直す。

(ヘ)　スカートの裁ち方・縫い方

a　前後の中央線は布目をまっすぐに置いて裁つ。折りひだのものは，折り山を布目まっすぐに置く。縫いしろは，左わきにあきをつくるので，前後とも腹囲・腰囲の間は，わき縫いしろのほかに

見返し・持ち出し幅を見こんでおく。その他，縦の縫いしろには，2 *cm*，腹囲に 1 *cm*，すそに 5 *cm* 加える。

b　インサイドベルトは，スカートを腹囲に止めるものであるから，厚地で伸びないものがよい。幅は普通 4 *cm* ぐらいであるが，スカートを高くはきたい場合は，廣く 6 *cm* くらいにする。丈は腹

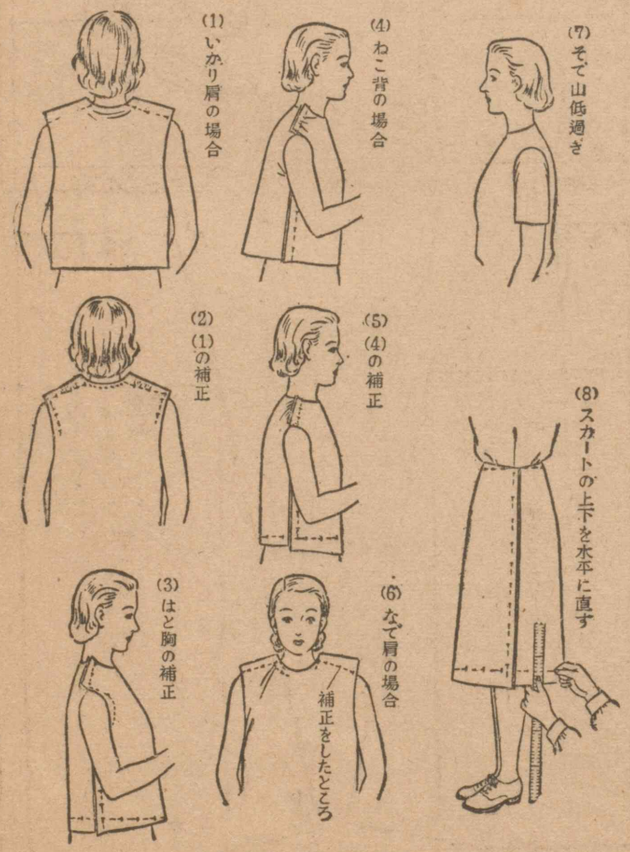


囲に巻いて,丈の両端を4 *cm* 折り返るように,突き合わせに折る。

c　仮り縫いをし，次の図のようにはいてみて，腹囲線・すそ線の正否，ダートの位置及び分量の正否，すそのゆるみの具合などをしらべて補正する。

d　本縫いは，ダートの割り縫い，わきの割り縫い及びわきあきの始末，インサイドベルト付け，すその三つ折りの順序でまとめる。

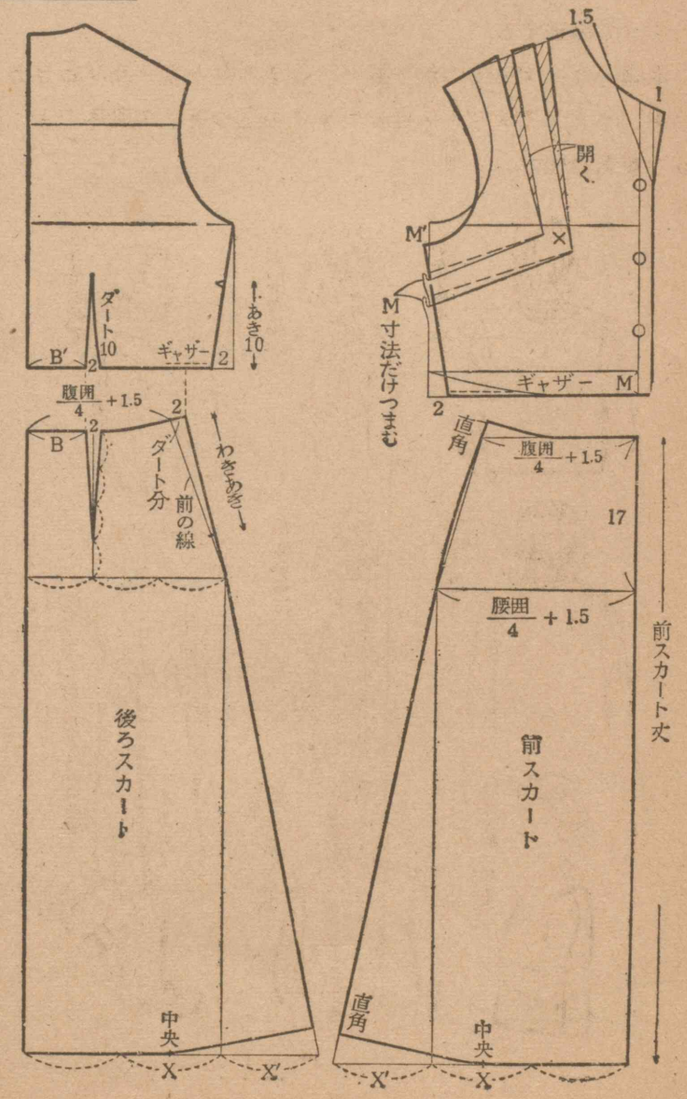
(5)　補正の仕方



(6)　ワンピースドレス

(イ)　27 ページ (1) の折りえり付き四布はぎスカートドレス

型紙の取り方

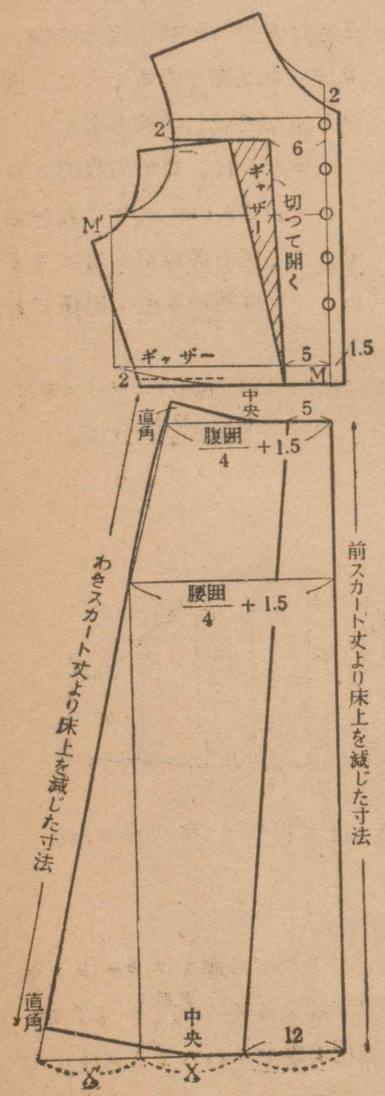


(ロ)　27 ページ (2) の縦線のはいったワンピースドレス

このデザインは，胸からスカートに続いて縦線がはいっているので，すっきりした感じである。

型紙の取り方

左図の前は，胸にギャザーを寄せ，腹囲にもゆるみを入れ，すそ幅も廣くしたもので，後ろはこれを應用する。胴の前はあいているが，腹囲のところが狭いので，わきあきが必要である。

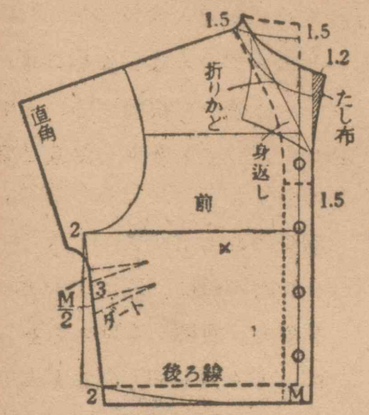


(ハ)　27 ページ (5) のキモノスリーブドレス

型紙の取り方

a　次の図のように前の型紙を使い，後ろのえりぐりを書き，前肩の線を延長し，わき下 2 *cm* 下げて，幅も 2 *cm* 出し，肩線と直角に，そで口線を引く。(そで丈を長くする場合はそで下線を肩山線と平行に延ばす。)

b　えりは別に付けず，後ろえりぐりを 1.5 *cm* 上げ，前のえりぐりも，図のように上げ，



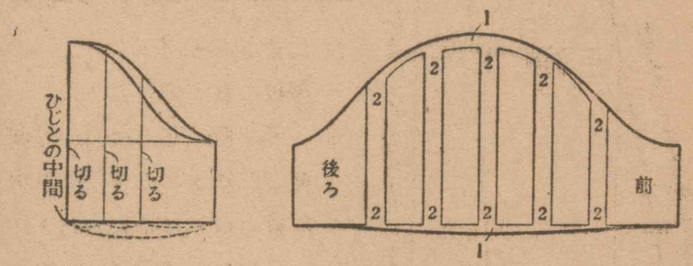
えりの折り返りの形がよいように出してえりの線を引く。なお，えりは身ごろが折り返るので，見返しを共布で取るように，適当な幅に見返しの線を引く。

c　スカートは，原型の腹囲のところで，1.5 *cm* のゆるみを加え，すそ幅を腰幅の $\frac{1}{2}$ 廣げるほかは，大体他のものと同様である。

附記　キモノスリーブの $\frac{1}{4}$ のそで丈で，そで口を縫い縮めて，カフスを付けるスタイルの場合は，肩山を水平にして，そで幅を $\frac{胸囲}{4}$ にする。

(ニ)　27 ページ (3) の角えりぐりのワンピースドレス

バッフスリーブの型紙の取り方



図のように切って開くが，そで口・そで山の 1 *cm* のゆるみは，布の地合いなどによって加減する。

裁ち方・縫い方について

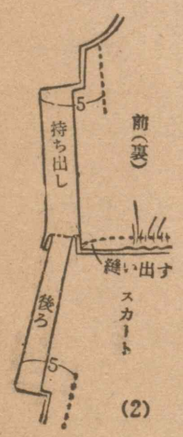
総じてワンピースドレスの型紙は，ブラウズの胴とスカートとを合わせたものであるが，腹囲をバンドで締めるので $\frac{腹囲}{4}$ + 1.5 *cm* として，ゆるくし，下着の厚みや成長にも應じられるようにする。縫い方は，腹囲線の上下で，左側に 25 *cm* ぐらいのわきあきをつ

くり，着る時，肩がらくに通るようにするほかは，大体，ブラウズ・スカートの場合と同様である。但し，腹囲にゆるみを多く取れば，わきあきの必要はない。

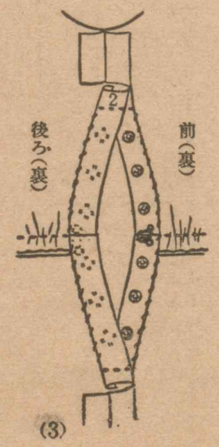
わきあきのつくり方

(1) 図は腹囲に縫い目のある，あきのつくり方で，この仕方は，(2) 図のように，裁つ時，わきの縫いしろを，前は2.5 *cm*，後ろは 5 *cm* 廣くして，見返し・持ち出しとする。これを 2 *cm* 幅に折ってみて，腹囲の縫い目のつれないように，縫いしろを加減して縫い，(3) 図のように，見返し・持ち出しの幅をまつる。次にあき止まりの上下で，2，3 度返し縫いで留め，縫い目の位置にアイ・フックを付け，3 *cm* おきにスナップを付ける。(4) 図は胴はぎのない場合のつくり方で，斜布で 6 *cm* 幅に裁ったものを持ち出しにし，4 *cm* に

(1)



(2)



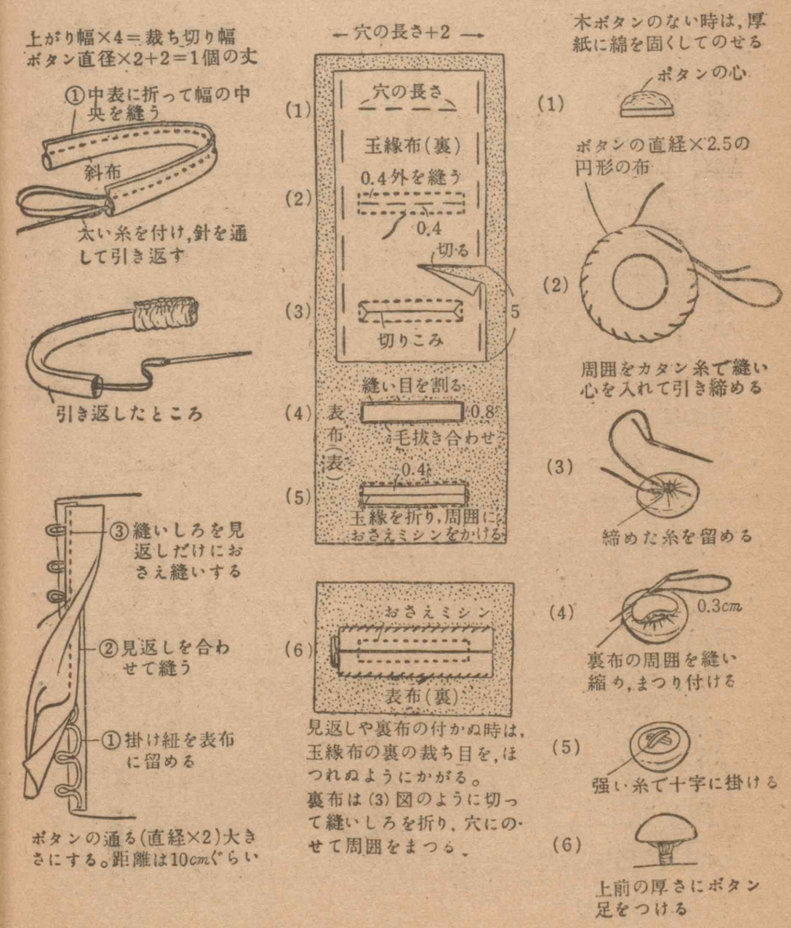
(3)

(4)

裁ったのを見返しに付けたものである。

ボタン・ボタン穴及び掛けひものつくり方

糸でかがるボタン穴は，上着には男子服に用いるほか，多くは下着類に用いる。玉縁のボタン穴は，柔かみがあり，女子服の上着類に廣く用いられる。又，布の包みボタンやボタン穴に代る掛けひもなどは，裝飾用としても多く使うものであるから，次の図によって



そのつくり方を知っておこう。

(7) どんな被服が涼しいか

涼しい被服の條件として，材料のことは既に学んだから，これを科学的に判断し選択しよう。

形は通風のよいことが大切で，布はからだから 1 cm くらい離れているのがよい。特に空氣の熱の対流は，すそから空氣がはいって上へと抜けるので，これを利用して，すそを開き，えりぐりを大きくしたのは涼しい。その他そで口などもできるだけ大きくし，その他の開口箇所も数多くすると涼しい。

(8) 用途に應じた服裝品の選択

スポーツ・通学・家庭・晴着用のそれぞれに適した衣服を選ぶと共に，服裝品もこれらに適したものを選ぶことが大切である。たとえば，通学用のくつには，編み上げの短ぐつを，晴着の時には，先の細い，かかとも細めで高い形を選ぶ。くつ下も同様に，通学用には，毛・木綿・人絹などの厚めのものを，アフタヌーンドレスには，薄い絹の長くつ下を選ぶなどである。

＊その他，ボタン・バックル・バンド・マフラー・手袋・カバンなど，種種な服裝品について，その折々に適する例を考えてみよう。

(9) よい身なりと作法について

ドレスを着た時に，最も礼を失することは，えりぐりや，すそ・そで口などから下着が見えることである。又，はめておくべきボタンやスナップがはずれていたり，衣服にしわのあるのも見苦しい。長くつ下はくつ下づりに正しく止めよう。ゴム輪のものは，ともすると不安定で直したくなるが，人前でスカートのすそを上げて直すことは慎もう。又，洋服は和服と違って，からだの線をはっきり見せるので，姿勢・歩行・腰かけ方にも注意したいものである。

(10) 流行について

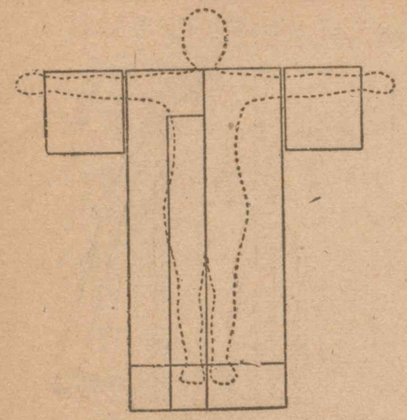
被服には流行がある。これは新しいもの，よりよいものに移ろうとする段階である。しかしそうでないものもあるから，これを取り入れるには経済・重宝・調和などの点から，そのよさを十分見きわめなければならない。無批判に，被服の目標にはずれた退歩的なものを取り入れることは，教養ある者の態度ではない。流行の取り入れ方は，直ちに教養の程度を示すものであるし，無批判な模倣は，きわめて不利を招くことがあるから注意しよう。

2. 家族の平常着

わが國で長い傳統を持った長着は，家庭の休息着としては用にかない，夏の湯上がりに，冬の保温着に，まだ多く用いられている。この休息着も，今後は住宅の改良と相まって，徐々に改良されなければならないが，持ち合わせをそのまま利用することが多いから，私どもは，一應長着の形・性能を理解し，よい家庭着を創作する段階として長着を製作しよう。

(1) 長着

＊長着にはどんなのがあるか。



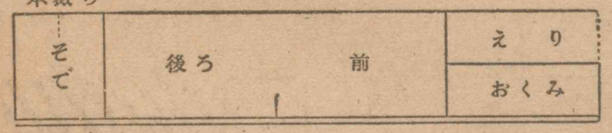
＊ 長着はどのように構成されているであろう。

＊ 男物と女物とでは，どこが違うであろう。又，おとな物と子供物とではどうか。

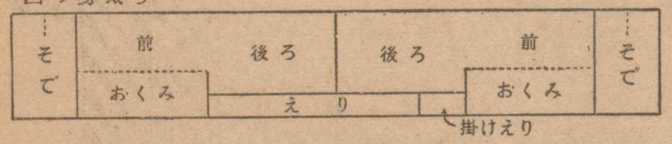
＊ 女物のひとえ長着を，用布・製作時間の上から，最も経済に仕立てるには，どう工夫するか。

長着には，下図のようなそれぞれに向く裁ち方の種類がある。

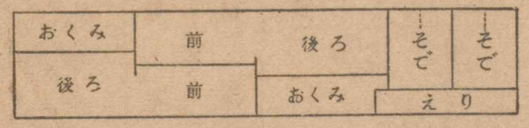
本裁ち



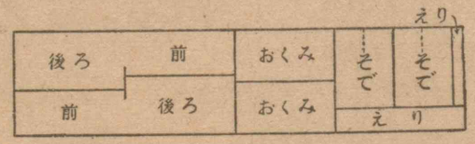
四つ身裁ち



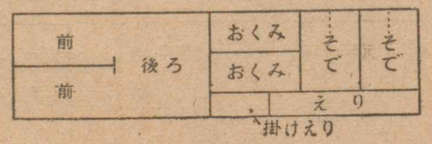
三つ身裁ち



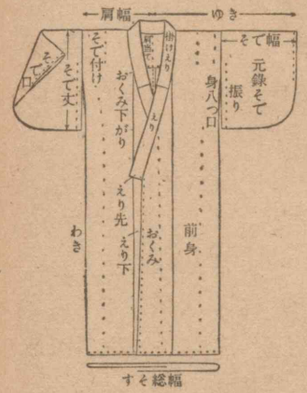
二つ身裁ち

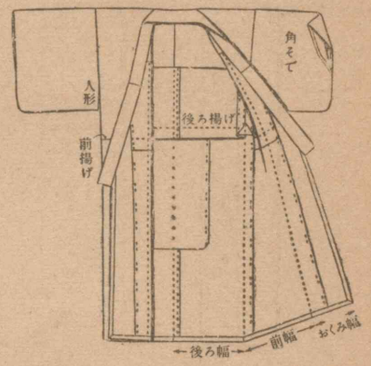


一つ身裁ち

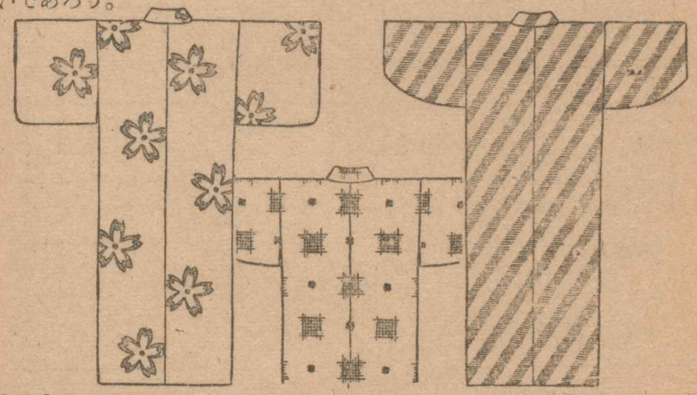


＊ 大裁ちのおくみ付きとおくみなしとでは，どんな得失があろうか。





＊ 女物の柄の大きいものは，柄の配置に注意する。どのようにするのがよいであろう。



大裁ちひとえ長着

(1) 大裁ちひとえ長着の参考寸法（單位は *cm*）

女物

そで丈（元録そで）	35～40
そで口	19
そで付け	23ぐらい

男物

筒そで	そで丈	30～35
	そで口	20～25
	そで付け	そで丈に同じ

そで幅		32〜34
ゆき		62
肩幅		30
身丈		150内外
着丈		110内外
後ろ幅	おくみなし	30ぐらい
	おくみ付き	28ぐらい
前幅	おくみなし	35
	おくみ付き	22
身八つ口		13
えり肩あき		9
おくみ幅		15
おくみ下がり		23
えり下		75
えり幅		5.5
すそ総幅		130〜136

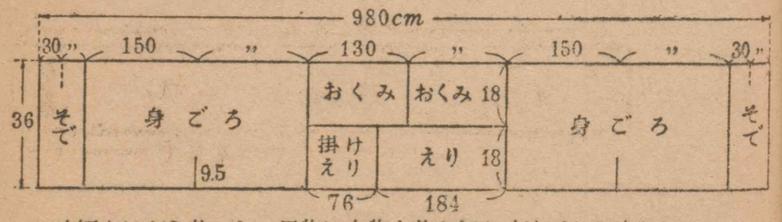
角そで	そで丈	45〜50
	そで口	25
	そで付け	40
	人形	5〜10
そで幅		34
ゆき		66（肩幅32）
後ろ幅		30（おくみ付き）
前幅		25（おくみ付き）
えり肩あき		8.5
おくみ幅		15（合いづま幅13）
おくみ下がり		21
えり下		65
えり幅		5.5
すそ総幅		140
腰揚げの位置	肩から	後ろ50
		前 54

＊ 長着の身幅は腰まわりから割り出す，どのようにきめたらよいか。

(2) 材料

＊ ひとえ長着の，涼しく耐久力に富む，地質・色・柄はどんなのか。

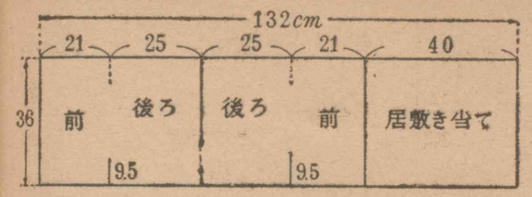
(3) 大裁ち長着の裁ち方（女物）

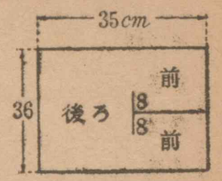


＊ 大幅布はどう裁つか。男物は女物と裁ち切り寸法がどう違うか。

肩当て・居敷き当て布の裁ち方

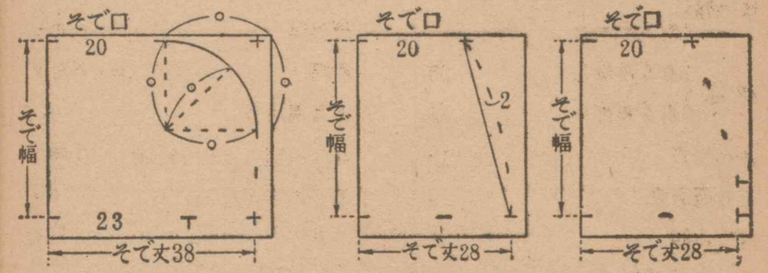
肩当て・居敷き当ては，表と同じ布，又は表地に似た地質を使う。





(4) しるし付け方

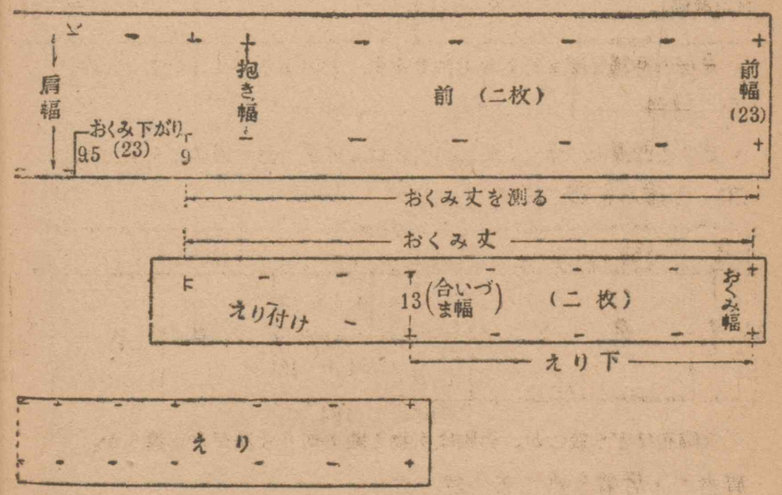
そで（いろいろの場合）



＊ しるしの付きにくいものはどうするか。

＊ そで丈 40cm の男物角そでの場合，そで口はどれくらいがよいか。

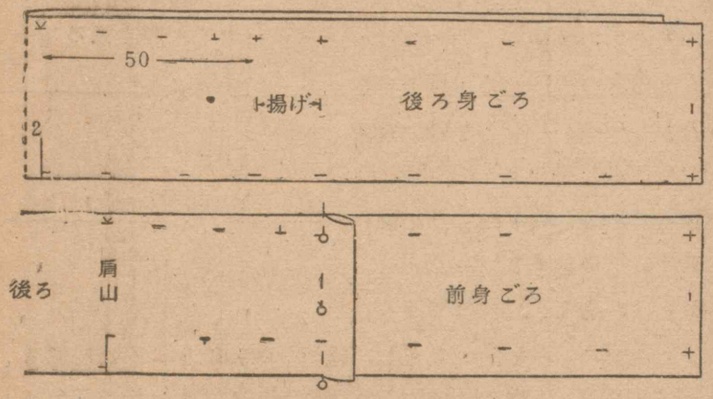
身ごろ（女物）



後ろは，前後4枚重ねて，そで付け・身八つ口・身丈・肩幅・後

ろ幅じるしを付け，のち，それぞれ前ページの図のようにする。

（男物）



でき上がり身丈－着丈＝腰揚げしろ

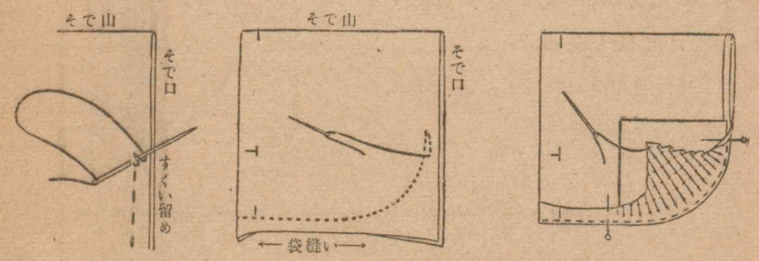
男物は身八つ口がなく，腰揚げじるしをするほか，女物に同じである。

＊腰揚げの前を後ろより下げるのはなぜであろう。

(5) 縫い方

そで

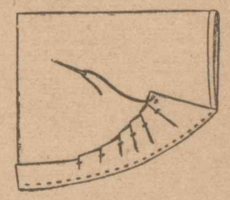
元録そでの場合



丸みのところは針目を細かく縫い，縫いこみは図のように1cmずつ奥を縫って，そで型を当て，糸を引き締める。縫いこみのかどのところでは，内そでの表に 2，3 針出して留める。

＊丸みを縫い締めた糸がつれると，どうなるか。又，締め方がゆる過ぎるとどうなるか。

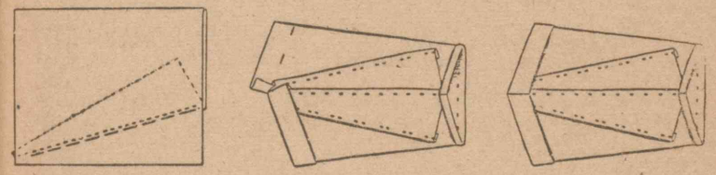
舟底そでの場合



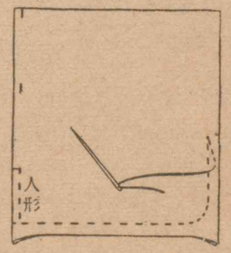
そで口の三つ折りしろ，振りの折りしろのところは，そで下を縫い残す。縫いこみは右の図のように，適当にひだを取ってとじ，端を内そでに留める。次にそで口くけをする。

筒そでの場合

そで下は縫いこみを開いてとじ，縫いこみの端を耳ぐけにする。のち，そで口をくけ，振りは縫いこみが平になるように折って留める。



角そでの場合

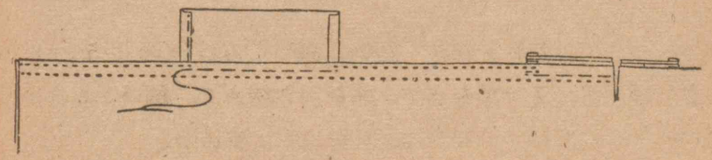


そで口下，そで下，人形を縫う。そでの丸みは2cmぐらいにする。その他は女物と同様である。

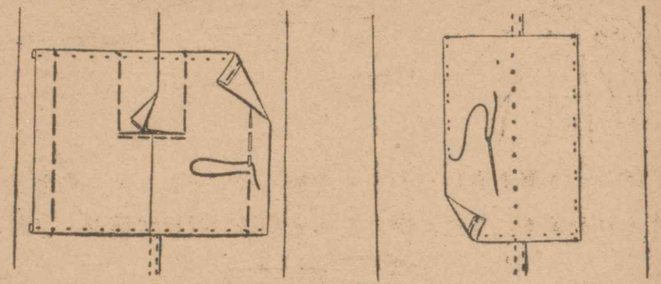
＊そで口は耳がきれいでも，三つ折りぐけにするのはなぜか。

身ごろ

(イ) 肩当て・居敷き当てのすそを二つ折りにして伏せ縫いする。



(ロ) 背縫いを二度縫いし，肩当て・居敷き当てをとじ付ける。

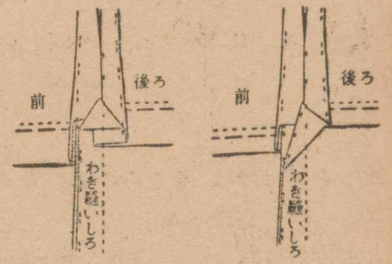


＊ひとえ長着を洗たくして，肩当て・居敷き当てが表とつりあいの悪くなるのはなぜであろう。

(ハ) わきを縫い，身八つ口はすくい留めにし，縫いしろを図のように始末する。

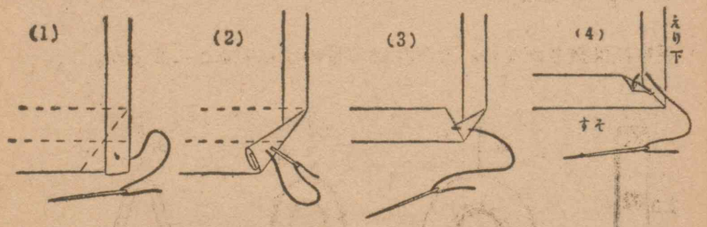
男物の腰揚げをする場合

わきの縫いしろの始末は，縫いしろの多少によって，右の図のように適当な方法にする。

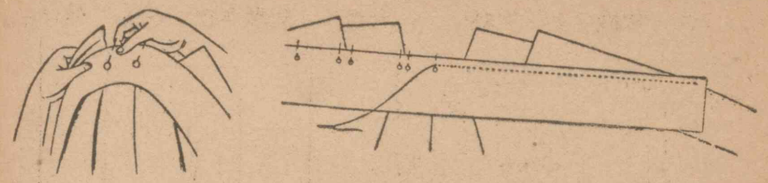


(ニ) えり下を三つ折りぐけにし，おくみを付ける。

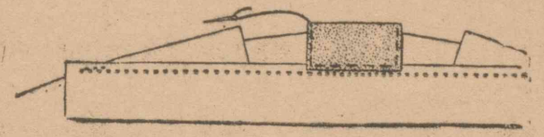
(ホ) すそを下の図のように折って，三つ折りぐけにする。



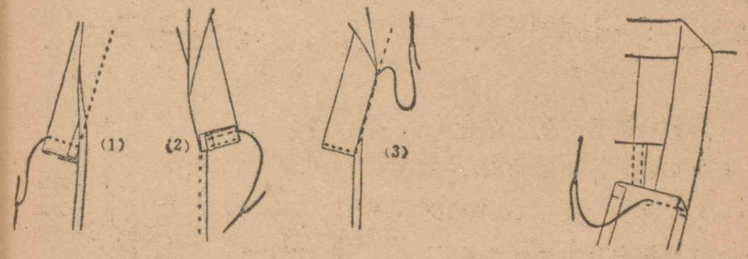
(ヘ) えり肩まわりは，次ページの図のように持ち，えり布を0.5 cm ゆるめて持ち，ここは特に針目細かく縫う。



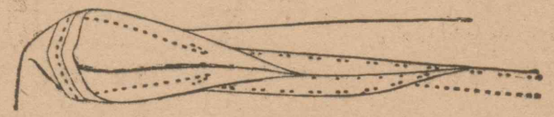
(ト) えり肩あきに三つえり心を入れてとじ，えり先をととのえ，えりくけをする。次に，掛けえり先を縫い付けて幅をくけ付ける。



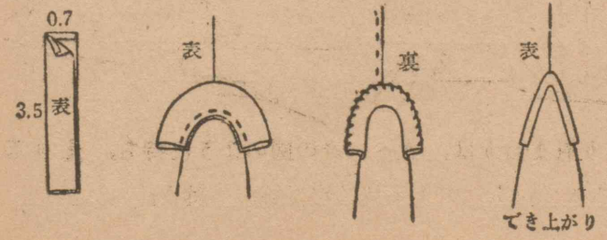
＊洗たくの時，えりにかたまりができるのはなぜであろうか。



(チ) そで付けは，身ごろの縫いしろを折り返して，針目細かく縫う。

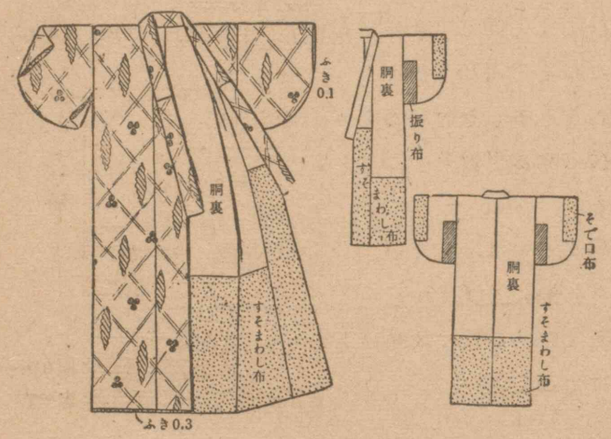


＊男物には振りがない。そで付けの留めはどのようにするか。



(リ) そで付け・身八つ口に，補強のささべりを共布で付ける。

大裁ちあわせ長着（女物）



(1) 形・寸法

ひとえ長着に裏を付けて，そで口とすそにふきを出す以外は，ひとえ長着と変らない。ふきの寸法は次のようである。

そで口ふき 0.1〜0.2 *cm*　　すそふき 0.3〜0.4 *cm*

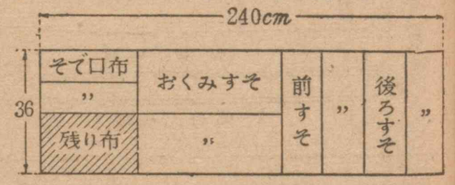
＊そで口にふきを出すのはなぜか。

(2) 材料

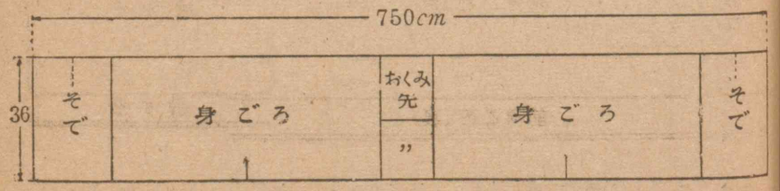
＊平常着にはどんな布地・色・柄が適当か。

(3) 裏の裁ち方

すそまわし布の裁ち方



胴裏布の裁ち方

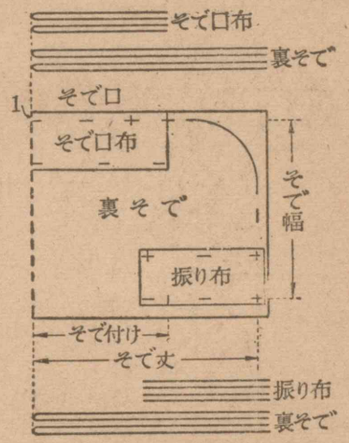


(4) しるし付け

そで

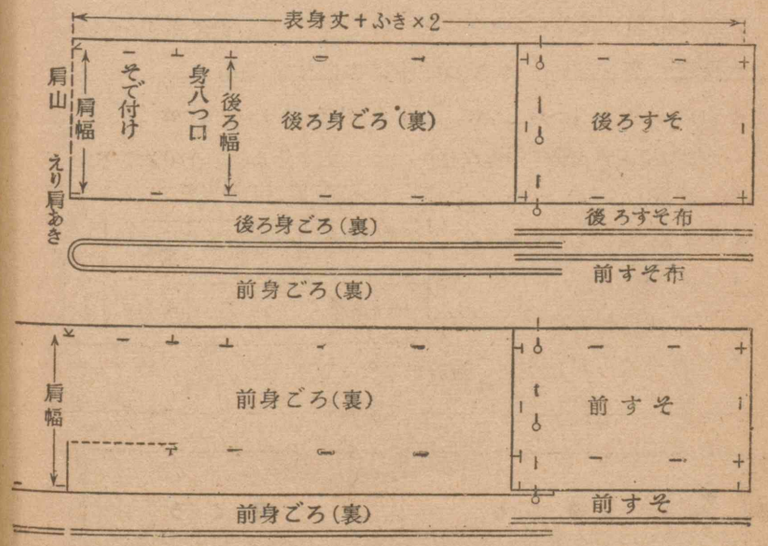
表はひとえと同じである。裏そでにはそで口布・振り布を重ねてしるしを付ける。但し，振り布は付けないこともある。

そで幅じるしは，そで口とそで下を縫い上げてからするのもよい。これは表裏が正確に合ってよい。



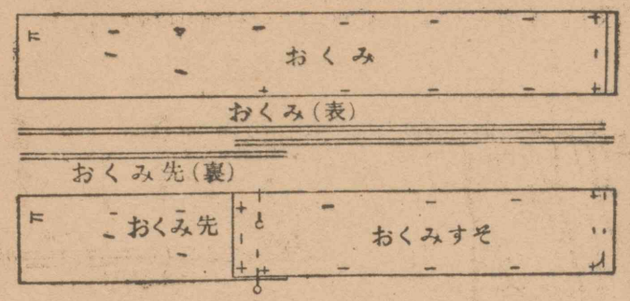
身ごろ

身ごろの表は，後ろ・前とも，すべてひとえの場合と同様にする。



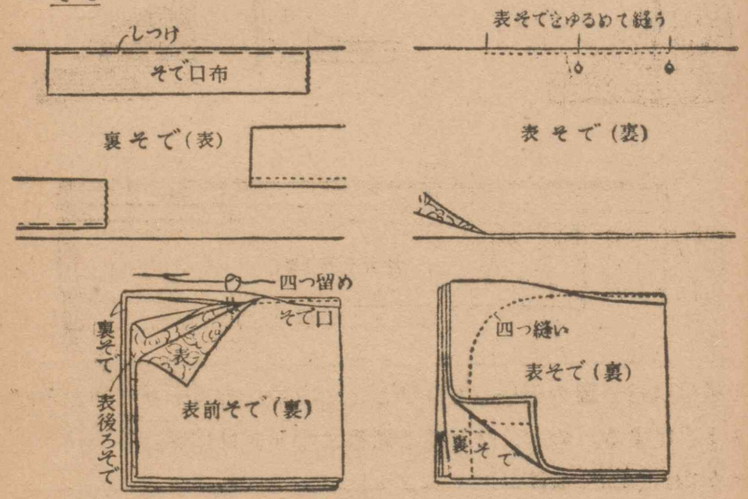
＊おくみなしの場合の裁ち方・しるし付けは，どのようにするか。

おくみは表・裏4枚を重ねてしるし，のち，裏のしるしをする。



(5) 縫い方

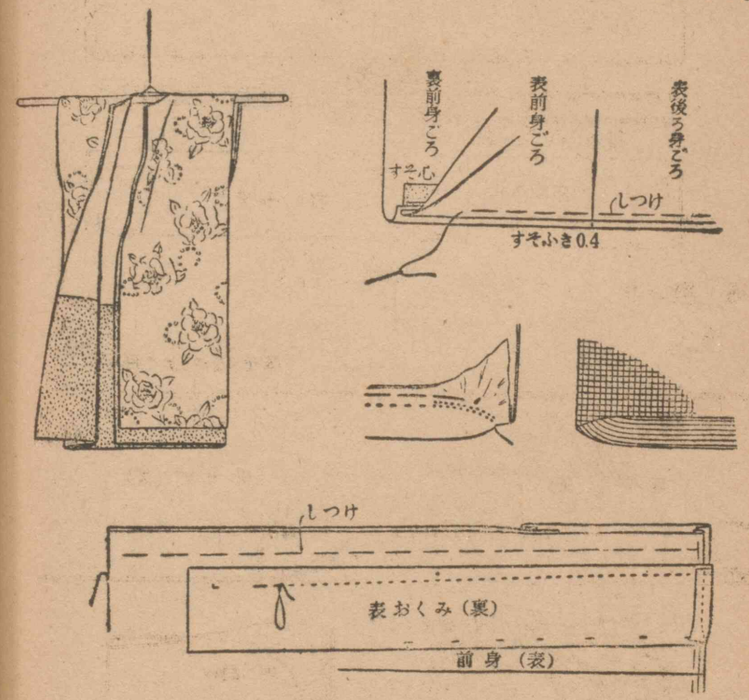
そで



表・裏のそで口を縫い合わせ，そで口止まりを四つ留めし，そで口下，そで下を四つ縫いにする。但し振りのところは，表・裏別々に縫う。次に，振りのところを表・裏平に縫う。

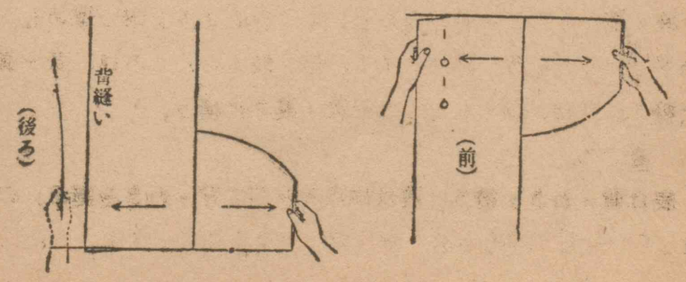
身ごろ

表は背・わきを縫う。裏は胴はぎをして背・わきを縫う。のち，丈しらべをしてすそを合わせ，背・わきを中とじする。次に，おくみにつま先をつくって四つ縫いし，えり下は，裏を控えるように縫って返す。すそとじは 0.4 *cm* 上で 3 *cm* 間隔くらいにとじる。

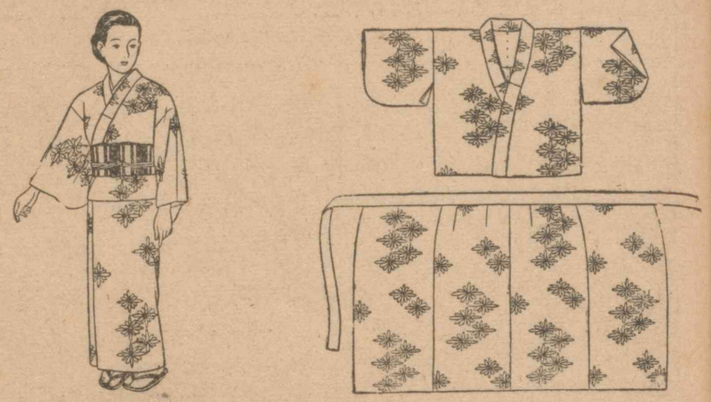


そで付けは四つ留めをし，表はひとえと同様，裏は折りが身ごろに返るようにする。のち，ひとえと同様にえりを付ける。

＊そで付けを最も簡単にするにはどうしたらよいであろう。



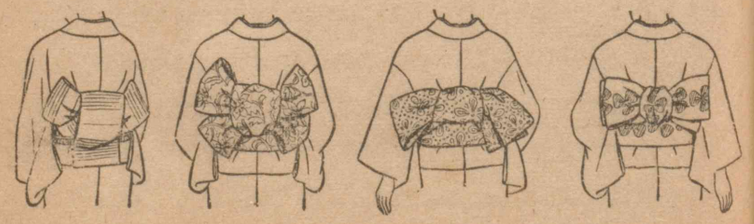
長着の應用一例（二部式）



(2) 帶

＊帶にはどんな種類があるか。どのように変遷して來たのであろう。

半幅帶

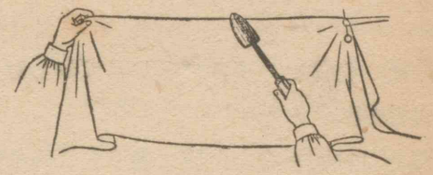


前ページの半幅帶は，幅 10～13 *cm*，丈 220～270 *cm* のを結んだものである。但し厚さ・かたさによって，多少その形は違う。

＊帶側及び心にはどんな布がよいか。長着との調和はどう工夫するか。

(1) 地直し

帶側は全体に裏からアイロンをかけ，両耳を同じつりあいに，少



し伸ばしてしらべる。心は地質に應じて，霧を吹くか又は水に浸し，のち，アイロンをかけて平に地直しする。

(2) 縫い方

要点は帶の両側が平なこと，側に心が平にはいることである。

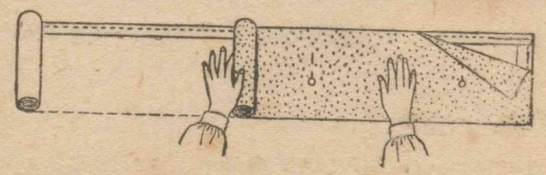
(イ) 中表に幅を軽く二つ折りにし，平に置いてつりあいをとり，50 *cm* ぐらいの間隔に待ち針を打ち，しつけでおさえる。

(ロ) 通しべらで丈・幅のしるしをし，丈の中央で，返し口を帶幅だけ残して縫う。縫いしろは一方へ折ってかどをとじる。

(ハ) 心を幅二つに折り，上がり幅より 0.2 *cm* 狹く裁ち切る。

(ニ) 帶側の上に心を重ね，50 *cm* くらいの間隔で，帶側を少し引っ張って心を合わせ，待ち針を打つ。

(ホ) 心を縫いしろの下側へ入れて，先に心の一方をとじ付け，次に，もう一方を縫いしろにのせてとじ付ける。返し口はとじない。



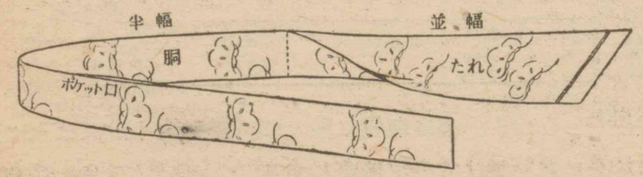
(ヘ) 引き返し口から，帶の端を引っ張って表に返し，丈をよく引いて側と心とを落ち着かせ，平にして側と心とのつりあいを見る。

(ト) 引き返し口の縫いしろを心にとじ付け，あきをくけ合わせる。

(チ) 全体にアイロンをかけておしをする。

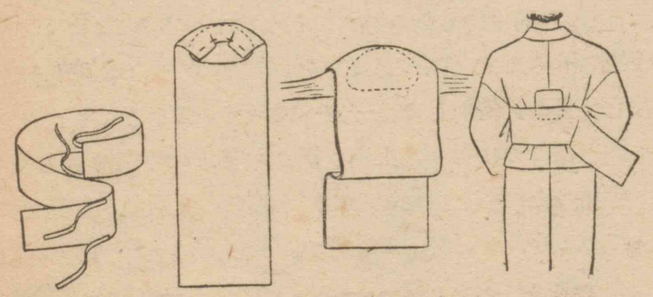
名古屋帶

後ろだけ幅を廣く，胴に巻くところは幅を狹くした形である。



＊ 從來の帶を，儀礼上などからやめにくい時，これを経済的にして，軽く，簡單につくり，締める方法はないであろうか。

名古屋帶應用の一例



使い古した帶や長着から，きれいな部分をとり，胴とお太鼓を組み合わせたものである。お太鼓結びとしては軽い一例であろう。

3. 和服と洋服との比較

和服は身丈が長く，帶が重く非活動的である。洋服はからだに密

着して丈も短く軽快である。下着から上着までの用布総尺も，かなりの相違があり，ことに礼服においては，その総尺・重量ともはなはだしい違いである。和服は，そで口・そで付け・身八つ口・えりまわりに，あきが多く通風がよいので涼しい。又，直線裁ちで繰りまわしがしやすいが，大体，習慣上形が固定しているため，発展性の少ないものといえるであろう。洋服は，その形を自由に創作できるので，そこにきわめて発展性があり，文化的である。私どもは，洋服の創作的立場に立って，わが國に最も適する衣服を，改新発展させて行きたいものである。

4. 下着類

下着には，はだ着とその上に着る間着(あい)とがある。主としてはだ着には保健上の考慮が拂われ，間着には保温と上着の形を整えるものとがある。次に私どもの下着の種類をあげてみよう。

(1) 種類・着方・用布について

- はだ着
  - (上) シャツ・シュミーズ・ブラジャー(半じゅばん)
  - (下) ズロース・パンテー (腰巻)
  - (上下続き) コンビネーション
- 間着
  - 保温用
    - (上) シャツ・シュミーズ・チョッキ・セーター
    - (下) ブルーマース
    - (上下続き) (あわせ長じゅばん・綿入れ胴着)
  - 整容用 (上下続き) スリップ (ひとえ長じゅばん)

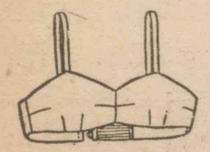
特殊物　ガーターバンド又はコーセット(くつ下づり付き)

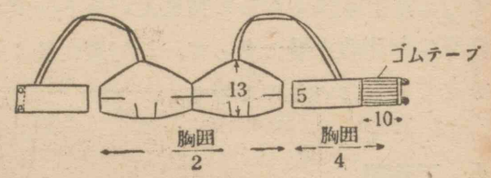
＊ 以上のほかに，なお種々な下着がある。それらの用途上の可否を考えてみよう。

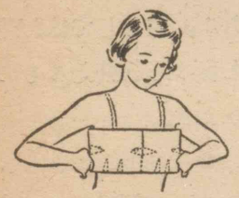
＊ はだ着に適する材料をあげ，冬の下着を形・材料・製作の上から，いろいろ調べてみよう。

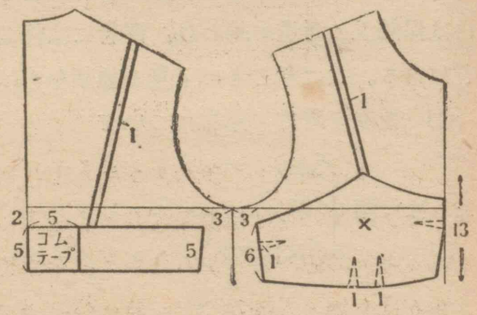
洋服用下着のシャツ・シュミーズ・スリップには，冬季用のはだ着のほかは，ほとんどそでを付けない。これは，上着のそで付けを太くすると手の運動にわき下でつれるから，なるべく細くつくるためである。そでが腕に密着していれば，下着のそでを多く重ねなくとも暖かいのである。

(2) ブラジャー







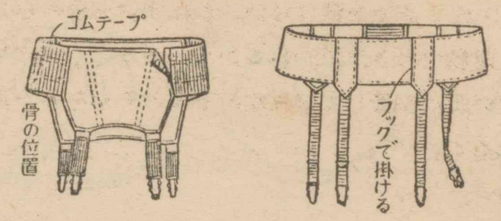


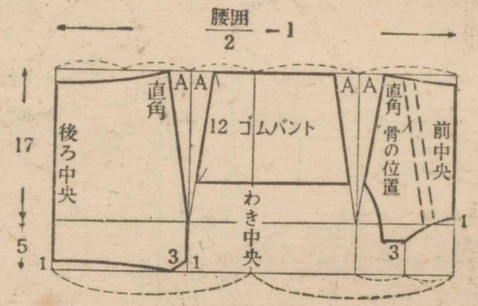
ドレイピングの仕方

ブラジャーは，乳をおおって乳の形を，上着の外からあらわに見せないためと，運動の時にも軽々とした感じのためなどに用いる。

用布は柔かい綿布がよい。ゴムテープは用いなくともさしつかえない。形は乳の大さきに合わせるように，種々に工夫するが，その方法としては，製図によるのもよく，ドレイピングによるのもよい。ドレイピングによる場合は，乳のおおわれる大きさに柔かい紙又は布を裁ち，上図のように胸に当て，乳の丸みから，左右と下とに出るゆるみをダートとしてつまみ，形をつくる。

(3) コーセットとガーターバンド





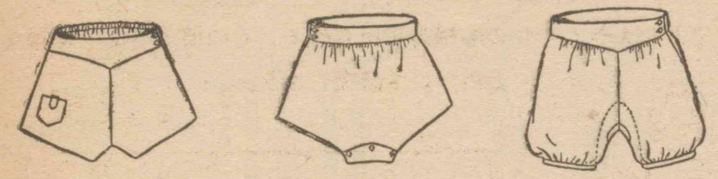
(イ) コーセット　胴の形を整えるためと，くつ下づりを付けるためであるが，冬は保温ともなる。左上の図は，腹囲から腰囲のかくれる程度の幅であるから，女子の平常用によい。

用布は木綿・人絹などで，特に伸びの少ない丈夫な紋あや織・紋しゅす織がよいが，ありあわせの帯心や厚地の古い帯側などを横布にして利用するのもよい。裏布には薄地の木綿が適当である。わきのところのゴムテープは布にしてもさしつかえない。

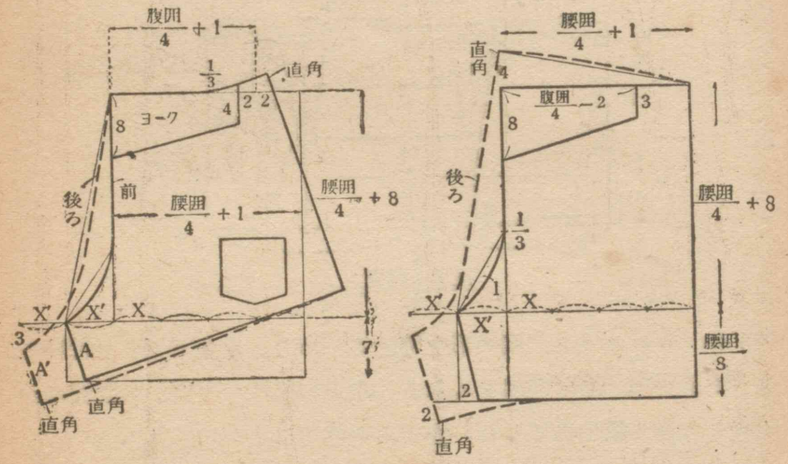
縫い方は前後の表・裏布を重ねて，縫い目及び周囲に斜の縁布を裏側になるように付けるのである。フック・アイは，左前わきに丈夫なものを 2 *cm* おきぐらいに付け，前後のすそから 3 *cm* ぐらい上にはガーター（くつ下づり）のゴムバンドを縫い付ける。

(ロ) ガーターバンド　スポーツ通学用には右上の図のもよい。

(4) 下ばき・中ばき



パンテー（その一）　パンテー（その二）　ブルーマース



パンテー（その一）はヨークを2枚にして付けたもので，腹部の形を整えるものである。ポケットは衛生用のものを入れるのに便利である。この型紙は左上の図のようにして取る。

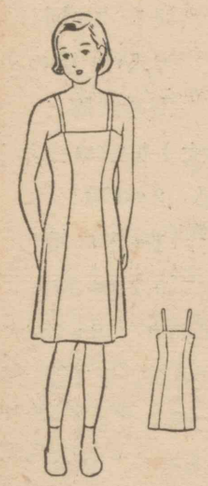
パンテー（その二）は，また下をあけてあるため，上げ下げする必要がない。又，前後ともバンド付きで，余分のゆるみが少ない。

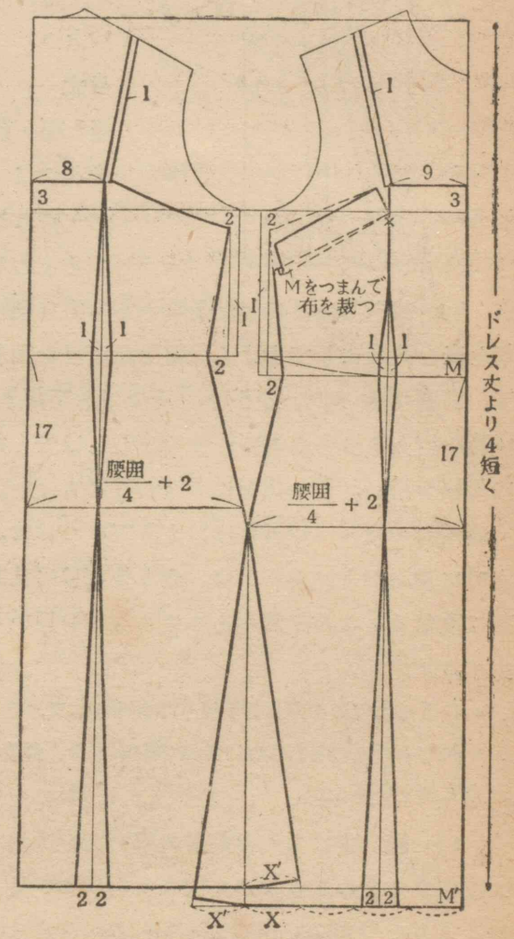
※ 裁ち方が（その一）と，どう違うであろうか，この裁ち方を考えてみよう。又，わきあけを右にしたのはなぜであろうか。

ブルーマースの後ろは，4cm幅の長方形のバンドを付けたもので，また止まりには当て布を付ける。右上の図はその裁ち方である。

(5) スリップ

このスタイルは，極一般向きな形であるが，肩ひもでなく，そで・えりぐりを大きくしたのも相当用いられる。その便・不便・長短などについて研究しよう。





※ 種々なスリップの形を描いてみて，その上に着るドレスとの関係を考えよう。

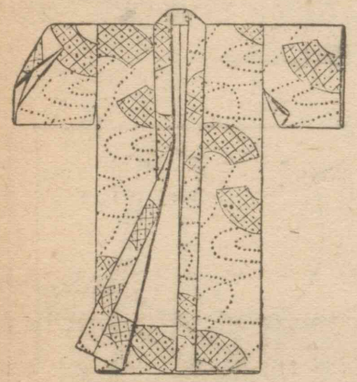
※ スリップにはどんな用布がよいであろう。又，どれくらいあればよいか。

※ 肩ひもにはどんなものがよいであろう。

※ 肩ひもが，肩からはずれぬようにするには，どうしたらよいか。

(6) 長じゅばん（あわせ）

(イ) 寸法はおくみ付き長着に対して，次のように加減する。



そで丈	1 *cm* 詰め
そで口	そで丈に同じ
そで付け	0.5 *cm* 詰め
ゆき	長着に同じ
身丈	着丈より 2 *cm* 少なく
後ろ幅・前幅	2 *cm* 増し
身八つ口	1～2 *cm* 増し
えり肩あき	0.2 *cm* 詰め
すそまわしの高さ	10～15 *cm*

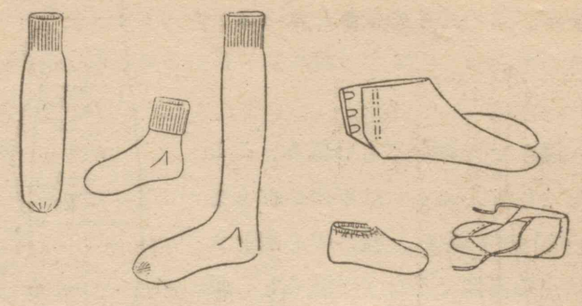
(ロ) 裁ち方は，あわせ長着の裁ち方を應用するが，そで裏は全部を表と共布にしてもよく，そで口だけを共布に裁ってもよい。又，別裏に裁って，縫う時，そで口を毛抜き合わせか，2*cm* くらい裏を控えることもある。すそまわしは表と共布がよい。えり布には半幅を用い，えり山をはぎ合わせてもよい。

表用布のたりない場合は，えり下をつけて，えりをえり下の高さまでに裁ったり，あるいは，えり先だけに共布を用い，掛けえりの下に重なるところを別のありあわせ布を用いるなど，いろいろに工夫する。

* ひとえ物の裁ち方とどう違うであろう。又，半じゅばんとはどうか。
* 長じゅばんの材料にはどんなのがよいか。長着との関係についてどのように考えて選ぶか。

(ハ) 縫い方はあわせ長着の縫い方を應用する。繰り越しと胸のふくらみに合わせるため，前身丈を 4 *cm* 長くして，これを身八つ口止まりでつまんでおくこともある。身丈は長く仕立てて腰揚げをするのもよい。又，えりは厚めの心布を入れてつくるとよい。

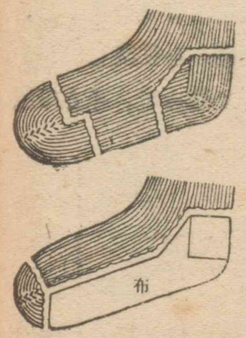
5. たび・つく下



外傷を避けるためと，保温とをかねた，たび・つく下のいろいろな形である。いずれもおもに既製品を用いるが，ありあわせの糸や布で工夫するのも楽しい。ことに私どものつく下は一年を通じて用いるものであるから，繕う時の知識としても知っておきたい。

編み方の計画

衣類の中でも，くつ下は最もいたみやすい。これを経済にはくには前後の区別なく編んで，はくたびごとにかかとの位置を替えるのもよく，初めから損じやすい箇所を，取りはずしのできるように編んでおくのも，繕いの時には便利である。



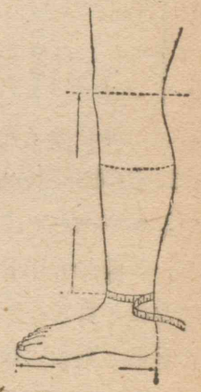
毛糸編みの長くつ下

材料・用具

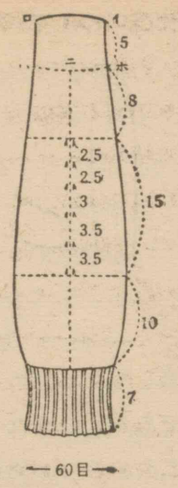
糸は中細 4 オンスぐらい，編み針は零号か一号の四本棒を用いる。

目数のきめ方

足くびまわり，ふくらはぎまわり，及び底の長さ，ひざから足くびまでの長さを測り，足くびまわり，ふくらはぎまわりの目数を算出する。次に，ふくらはぎの

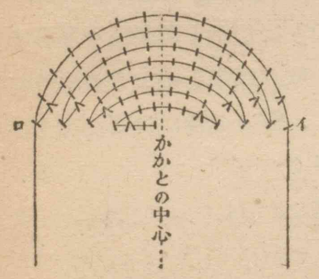


目数から，4 目減じたものを，編みはじめの目数とする。この時4の倍数になるように目数をきめる。

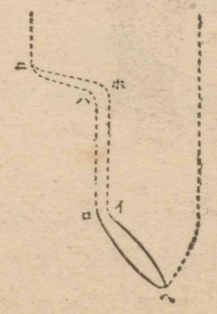


編み方

2目ゴム編みで 7cm ぐらい編み，ここから表編みにして，ふくらはぎのあたりまで（およそ10cm）編み，後ろ中心点をきめ，この基点の両側で1目ずつ減らし，足くびの位置に近くなったらそのまま増減なく編む。右の図は普通の場合の参考寸法であるから，おのおのの実測による割り出し寸法を用いるとよい。次に足くびの目数の約半数を，甲とかかととに分け，かかとの部分だけ 5cmぐらい編む。

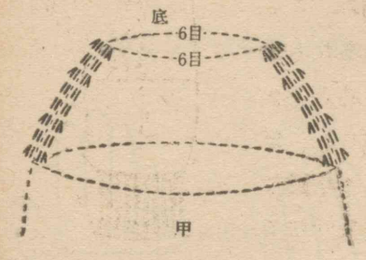


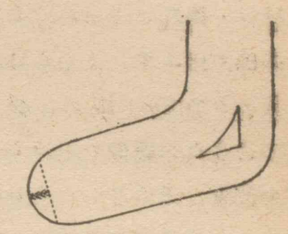
かかとの詰め方は，左の図のように中心から左右へ2目ずつ編んだところから詰めはじめ，中心の目数を1目ずつ多くし，表編み・裏編みを往復してかかとの両端まで詰めて，イまで編む。



次に右の図のロハと，ホイの間の目を拾い，ヘロハニホイヘと続けて一まわり編み，ここから甲とかかとの境で一まわりおきに1目ずつ減らし，足くびのところの目数と同数になった時，つま先の 3cm 手前まで，増減なく編む。

つま先 3cm の間で，甲と底とに分け，甲と底の境で下の図のように，2段おきと1段おきに5回ぐらい減らし，残りの目数が，一まわりで 12 目になった時，糸を残して切り，甲と底を本目つなぎにして留める。



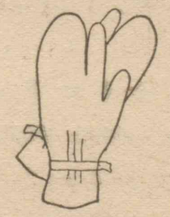


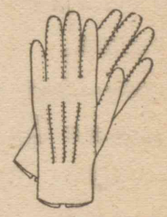
＊ かかと・つま先のひどく損じたくつ下が，幾足もあった場合これを再生するにはどうしたらよいか。

＊ 女子のたびは白地が多い。なぜ白地が多く用いられるか。くつ下のように，それぞれの好みの色物を用いたらどんなであろう。その時の長着との関係は，又，服装全体との関係は，などを考えてみよう。

＊ くつ下の地質や色は，洋服とどのように調和させたらよいか。

6. 手袋





手袋には，木綿・絹メリヤス，手糸編み物，布・皮製などがあり，指も三つに分れたもの，5本指のものなどがある。主として保温の目的であるが，中には作業用として，厚地布で仕立てることもある。

＊布でつくろうと思う時の型紙はどうしてつくったらよいであろう。又，布はどんな地質が適当か。縫いしろは幾らにするか。

＊毛編み手袋の色を撰択するのに，どの冬服にも割合調和するのは何色か。

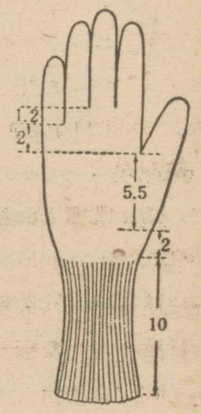
毛糸編みの手袋

材料・用具

糸は中細4オンスぐらい，編み針は零号か一号5本。

目数のきめ方

図のように掌囲の寸法を測り，この寸法に合う目数を知り，この目数を4本の指に配分する。



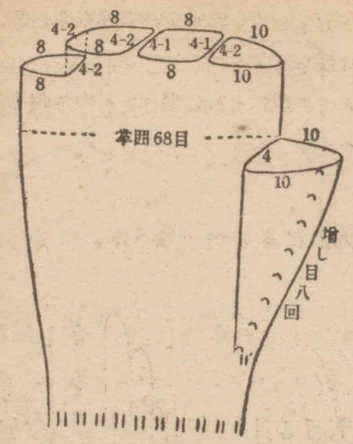
おや指の目数は4目を取って，あとを増し目でつくる。

各指または，おや指と人さし指のまたでは新目4目つくり，小指と無名指との間では2目，中指の両またではおのおの3目ずつつくる。すなわち，掌囲68目とする場合は，次のようになる。

$$\{(68-4)\div 2\}\div 4 = 8$$

総数	新目	手のひらと甲に分ける	四本指	配分数

小　指	$8\times 2+4-2=18$
無名指	$8\times 2+\{(4-2)\times 2\}=20$
中　指	$8\times 2+\{(4-1)\times 2)=22$
人さし指	$(8+2)\times 2+4-2=22$
おや指	$(2+8)\times 2+4=24$



各指丈の標準寸法

女子用

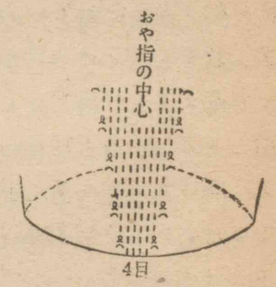
おや指丈	5.2 *cm*
人さし指丈	6.8 *cm*
中指丈	7.3 *cm*
無名指丈	6.8 *cm*
小指丈	5.3 *cm*

＊指丈は各自のを実測するのであるが，男子用のは，女子用と，大体どれくらい違いがあるであろう。

編み方

(イ) 掌囲68目の場合，手首まわりはそれより8目減じて，掛け目60をつくり，ゴム編みを少しかために10*cm*編む。次に表編みに移る時，八箇所で増し目をし，もとの目数として表編み2*cm*編む。

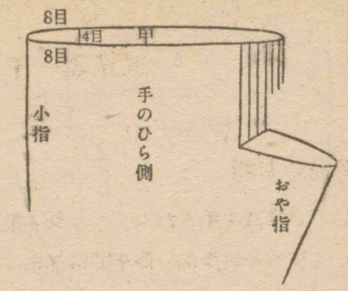
(ロ) おや指　4目をとって，その両側で図のように，2段おきと3段おきに交互に増し目をし，8回増して目数20となった時，指またで4目をつくり，24目として指の長さまで編む。



(ハ) 指先の減らし方は，2目おきに2目一度を一周し，次の2段を表編みにし，又，1目おき2目一度を一周する。次の段からは毎段2目一度を続け，残りの目数が6目になるまで編む。糸を10*cm*くらい残して切り，これを残りの6目に2回通して糸を引き締める。指先は大体0.5*cm*の間で減らすから，指の長さは0.5*cm*手前まで編んでおいて減らしはじめる。

(ニ) おや指のまたの4目を拾って，掌囲の68目を，おや指の

付け根のところから 2cm 編む。次に右の図のように，おや指またの4目の端から，3 目は手のひらの方へずらせ，ここを棒の境として小指の位置をきめる。



(ホ) 小指　位置のきまった端から 16 目取り，指またで4目をつくって4段編み，4目のうち，両側で2目を減じ，おや指と同様，指先まで編んで留める。

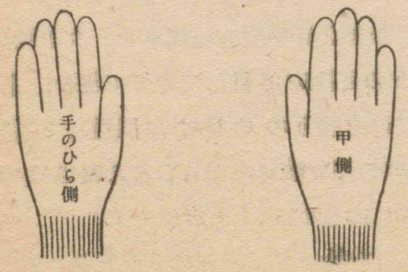
(ヘ) 無名指　小指の付け根の新目4目と，残りの目数とをいっしょに4段編み，無名指のまたの新目4目のうち2目減じて1段編む。次に中指との間で4目をつくり，合計 22 目を4段編み，中指との境の4目を2目減じ，小指と同様に指先まで編む。

(ト) 中指　両またの新目4目ずつを取り，4 段編んで新目4目ずつのうち，1目ずつを減じ，他の指と同様に指先まで編む。

(チ) 人さし指　残りの目数と指またの4目とを共に4段編む。次にまたの新目を2目減じ，その他は他の指に準じて編む。

(リ) 仕上げは甲の方から見て，小指の上に順次他の指が重なるようにし，又，おや指は，手のひらの方へ折り重ねる。

各指の折り重なり方



＊掌囲の目数が 72 目の時，各指の目数はどうなるか，割り出してみよう。

＊これと別の方法で，どんな指の編み方ができるであろう。

＊手袋はどこが最もいたむか。どう繕うか。

單元3.　手入れと保存

單元の目標

1. 日常着を手入れよくし，長もちさせる方法を知り，その技能を養う。
2. 被服を科学的，能率的に洗たく仕上げをする技能を養う。
   (1) 繊維や被服の種類によって，どんな洗たく方法を選ぶかを知る。
   (2) 水，洗たく剤，洗たく用品などについて正しい知識を知る。
   (3) 洗たく・仕上げについての方法を知り，技能を養う。
3. 被服の保存法について，その知識と技能を養う。
   (1) 被服の容器と保存の場所について知る。
   (2) 保存の仕方と知識と技能を身につける。
   (3) 虫干しについての知識と防虫法の技能を養う。

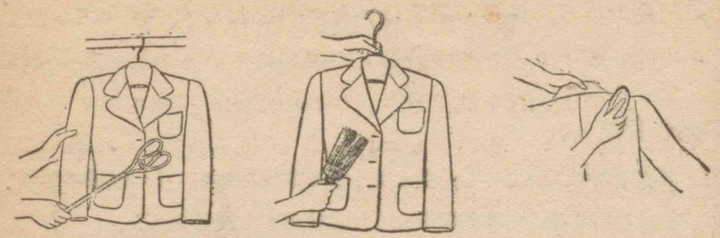
寒くなれば手を通すばかりに用意された冬着から，夏は清潔に洗い上げた白地物など，すべて被服が出し入れに便利で，いつどんな場合でも，すぐそのあり場所がわかるように整理されていたら，仕事の能率は上がり，毎日の生活が明るく楽しいことであろう。

又，被服の原料の乏しい今日，当を得た手入れ・保存によって，できるだけ被服の壽命を延ばすことは，私どもの大切な務めである。

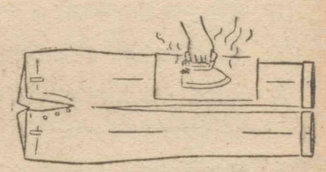
1.　日常の手入れ

空氣中には種々のばい菌やほこりが浮遊していて，被服にも附着する。被服を長く着用したり，たびたびの外出に着用すればするほど，この附着量は多くなる。これをほおっておくと，組織の内部にくい込んで容易に落ちないから，ことに平常着は手まめな手入れが必要である。

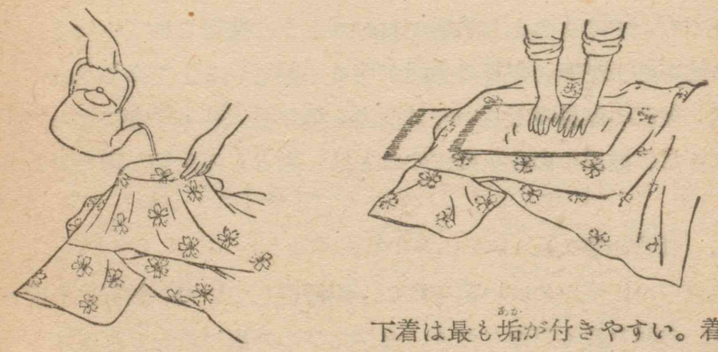
上着類は，外出後着替えたら風を通し，ほこりを拂い，毛織の洋



服類はブラッシュをかけて形を整えてしまう。ズボンのひざの出たのは見苦しいから注意する。又，眞夏に汗の付いたものなどは，直ちに，ぬれタオルで両面からおさえて取るか，場合によっては図のように，下にバケツ又は洗面器の類を受けておいて，流し出しておく。すべてしみは，付いた時すぐ洗えば簡單に落ちるから，時日が経過しないように注意する。



汗しみの取り方の一例

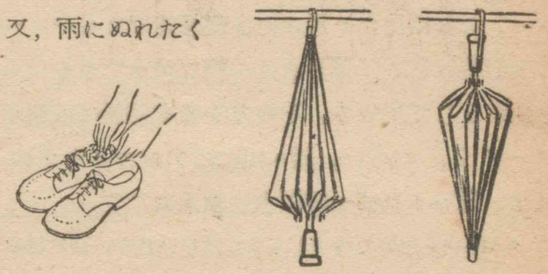


下着は最も垢が付きやすい。着物の垢は，からだから出る脂肪と，空氣中のほこりなどが，いっしょになったものである。この脂肪は，空氣に触れると酸化し，酸化脂肪に変じ，時日が経過すると黄色み

をおびて來る。垢はこの脂肪が酸化しないうちに，早く取り除くことが肝要である。眞夏の下着は，汗が付いたらすぐ洗っておく。

その他，革のカバンや手袋などの洗いにくいものは，時々薄いアンモニヤ液でよごれを拭き取り，かわいてから，同色のくつクリームを塗っておくと，新しいもののように光沢がある。又，雨にぬれたくつやかさは，かさは石づきを上にして掛けるか廣げ，くつはよごれを取って木型の代りに新聞紙などを詰め，クリームを塗って蔭干しにする。

良い例　悪い例



＊ 洋がさの骨の主要な部分はさびやすい。どうしてさびを防ぐか。

なお．毎日用いる寢具は，相当の濕氣を含むものである。清潔と暖かさのために時々日光に当てる。

2. 洗たく

(1) 洗たく物の分類

洗たく物は，その繊維と色などによって，取り扱いが異なるので，まず初めに，洗たく物の分類が必要である。

a　洗たく剤に対する性質から，どのように分類したらよいか。

b　染色の落ちやすいものはどのようにしたらよいか。

c　織り方の上から，洗たくの操作に，どのような注意がいるであろう。

又，食卓用のものとはだに触れるもの，裝飾用のものなどは，区別して洗わなければならない。

今後の織物は交織物が多くなって來るであろう。從ってその見分

けも困難なことが多いが，その場合には，一番弱い纖維を対象にして洗たくする。

(2) 水，洗たく剤，洗たく用具について

(イ) 水　水にはいろいろなものが溶けこんでいるが，このうち洗たくに関係のあるものは，硬度と鉄分である。雨水は天然の蒸溜水で，これは洗たく用水には理想的であるが，一般には井戸・水道の水が使われる。井戸水は一般に硬水であるから，洗たくにはこれを軟水として用いる。その方法は木綿類には硬水 1 l に対し，炭酸ソーダ 2 g ぐらい，絹・毛にはアンモニヤ 5 cc ぐらいを加えるか，又は，煮沸すれば一時硬水は軟水になる。

* 雨水を用いる時はどんな注意がいるか。硬水はなぜいけないか。

(ロ) 洗たく剤　洗たく剤にはいろいろあるが，一般の家庭に適当なものは，せっけん，炭酸ソーダ，あく，アンモニヤ，硼砂(ほう)などである。

せっけん

せっけんの機能　せっけんは脂肪と苛性ソーダとを化合させたもので，そのせっけん液は，布の組織の中に滲透(しん)する性質があり，よごれを分解して，それを布からひき離す特有性がある。これにあわの機能や洗たくの操作も加わって，よごれは水の中に運び去られる。

* 洗たく液の温度を高めると，せっけんの機能は一層増す。なぜか。

せっけん使用上の心得　せっけんはよごれを除く力も強いが，色をはがすこともある。色物の洗たくには液の温度，操作にも注意する。又，洗たく物はしばらく浸しこんでよごれをゆるませ，のち，せっけん液に入れる。せっけんの量は，その質や洗たく物のよごれの程度によって一定しがたい。普通は水 1 l に対し 5 g ぐらいが適当とされているがせっけんの質にもよるから，あわが立つ程度でよい。多過ぎても特別の効果はない。

せっけんの見分け方　せっけんの質に一番関係のあるのは原料の油脂で，これには動物性のものと植物性のものとがある。良質のせっけんは，主として植物性の油脂が使われるが，これは高價なため，動物性の油脂でつくったり，又は二種を配合したりする。一般に，動物性のものは植物性のものに比べて溶けにくい。

良質のせっけんを知る最も簡単な方法は

a　細かいあわがよく立ち，これが長もちする。よく溶けてもあわの大きいのは遊離アルカリが多い。

b　長くおくと汗をかいたり，小さく縮むのは水分が多く，又，粉をふき出すのは遊離アルカリが多いことを示し，どちらもよくない。

c　粉末せっけんは，さらっと溶けるのがよい。ざらつくのは不純分があるためである。

d　アルコールに溶くと，良質のものはよく溶けるが，不純分のあるものは沈澱する。

炭酸ソーダ　結晶体で普通洗たくソーダといわれる。アルカリ性で，主として硬水の軟化に用い，せっけんと併用すると効果がある。結晶体を失って，白い粉になったものも，その効力に変りはない。

* 粉末になった炭酸ソーダの使用量は，どう加減するか。

あく　木灰に水を加え，かき混ぜて，その上澄み液を用いる。炭酸ソーダの代用としてせっけんと併用する。

アンモニヤ　弱アルカリ性の液体で，布に残っても揮発して，布地をいためない。硬水の軟化，毛織物の洗たくに用いる。

硼砂(ほう)　固形のも粉末のもある。弱いアルカリ性で，アンモニヤの代用に使用する。水に溶けにくいので，一應濃いめに湯で溶かし，これを薄めて用いる。

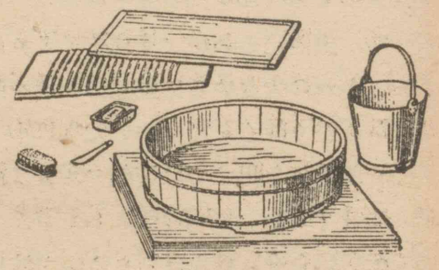
この他，せっけん代用として，さいかち・むくろじなどの皮の煮出しじる，ふのり液・米ぬかじる・米のとぎしる・油かす（つばきや菜種）の煮出し液などがある。他の薬剤に比べて劣るところはあるが，大体中性であるから，地質をそこなわない。

＊ 以上のほか市販にはどんなものがあるか。

(ハ) 洗たく用具

＊ 洗たくには適当な高さの台が必要である。どんなものがよいか。その高さはどれくらいが適当か。

洗たく用具



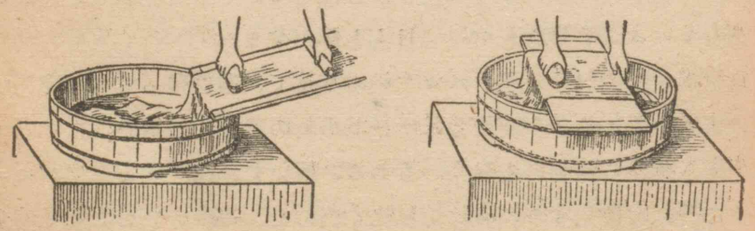
(3) 洗たくの方法

(イ) つかみ洗い　洗たく物を液に浸したまま，左右から柔かく布をつかみ寄せては廣げる洗い方で薄地物を洗うのに適する。

(ロ) おしつけ洗い　洗たく液の中で，軽くおしつけてはゆるめる洗い方で，地質の丈夫な，力のいるものを使うのに適する。

(ハ) ブラッシュ洗い　平板の上に布を廣げ，洗たく液を流しかけながら，ブラッシュでよごれをはき流す。この方法は深部のよごれが取れぬので，つかむと折りじわになって困るめいせんなどに應用する。

ブラッシュ洗いの例



(ニ) へら洗い　平板に布を廣げ，裁縫用のへらを斜にねかせて

軽くしごく。カフスやカラー，又は半えりなどの特によごれた部分を洗うのに用いる。

(ホ) たたき洗い　よごれた部分へ直接にせっけんを塗り，ブラッシュの背か手のひらでたたいて，よごれを強くおし出す洗い方である。着物のえりやたびの底などを洗うのによい。

(4) 洗う時の注意

(イ) 下洗い　水につけただけでも，表面のほこりやごみは取れるし，せっけんのききめを妨げる汗の酸分や塩分も取れるから，洗たくはまず下洗いをする。この時色物は布端で色だめしをする。

(ロ) 洗たく液　せっけんの液は，温度が高いほど洗滌力はあるが，地質・染色・交織物のことを考え，微温湯にしばらく浸しておいて洗う。その量は，白物ではひたひたに浸るくらい，色物はたっぷりがよい。又せっけん液は新しいものほど有効であるから，いるだけを溶かして用いる。

＊ 毛・絹・人絹織物などに熱湯をそそぐとどうなるか。

＊ せっけんの容器はどんなのがよいか。又，使い残りの小さくなったせっけんはどうして用いるか。

(ハ) 白地物　白地物はよごれが目立つから，乱暴に扱いがちになるが，たとえ純綿でもこする洗い方は避ける。白く洗い上げるには，よごれの新しいうちに洗う。白地は場合によって漂白を必要とすることもあるが，この場合は，生地に適した薬品の選択と分量を誤らないように注意する。一般に木綿・麻・人絹・スフなどの植物性繊維，又は植物性繊維にわずかでも動物性繊維の交ったものは，ハイドロサルファイトか過酸化水素水を使う。しかし漂白すると多少とも布地をいためるので，たびたび行うことは好ましくない。

(ニ) 色物　大体色は弱いものと考えて，せっけんの分量は少なく，洗たく液の温度は低くして手早く洗う。洗たく剤は，低い温度

で溶ける植物性せっけん，又はふのりやさいかちなどを用い，布を泳がせるようにして洗う。水から上げたものは積み重ねたり，洗ったままでおくと，色がしみ付くから，すすいだらよくしぼって，早くかわかす。

(ホ) 特殊物　特殊な組織の布地はいたみやすいから軽く扱い，しぼる時にもけっしてよじってはいけない。

ベルベットは液に浮かせて表面の毛先だけを，ブラッシュではき出す。すすぎも軽くし，しぼらずそのまま毛ばを外にして干す。

しゅす・紋織物・ししゅうは板に廣げ，手のひらかブラッシュでたたき洗いにし，こすらぬようにする。すすぎは両耳をたぐって前後に振ってすすぎ，おさえてしぼる。

しぼ物はつかみ洗いかおしつけ洗いをし，握ってしぼる。

レース・ボイル・ガーゼその他の薄地物は，布がおどらぬよう，液をひたひたにし，手のひらでおしつけて洗う。干す時は特に形をよく整える。

(5) まる洗い

たもと，ポケットの中をよく調べ，ほこりも取って洗う。

(イ) すすぎ　幾度も洗っているうちに，白い物が黒ずんだり，黄ばんだりするのは，主としてすすぎが粗略なためである。

すすぎの効果を上げるには，せっけん液を使った場合は，最初のすすぎにソーダ（水1 l にソーダ 1～2 g）を溶かした微温湯を使い，次からは水を幾度も取りかえてすすぐ。すすぐ時もよごれをおし出す操作が必要で，振りすすぎは特殊な物に限る。

(ロ) しぼり　水けのある布を引っ張ってみると，絹や毛ははなはだしく伸びても，かわくと又もとに戻る性質があるが，人絹・スフはそのままで戻らない上に，水に非常に弱いから，必ず握りしぼりか，おししぼりにする。

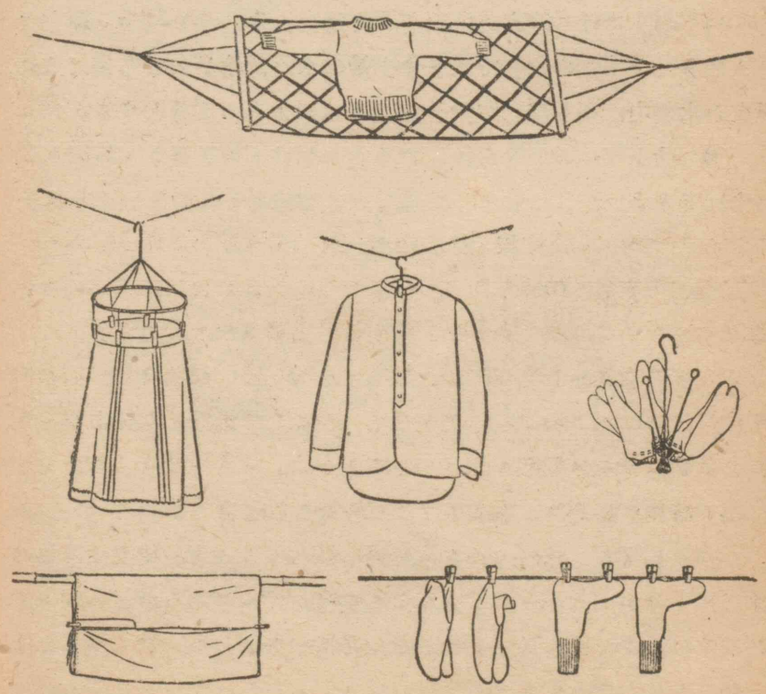
色物は手早くおししぼりにし，すぐ掛け廣げて，色の溶け出すものは，布の両面から乾布で水けを取る。

しわになって困るような，地厚な絹布類は，棒に巻いてしぼるか，たたんでおしつけてしぼる。

(ハ) 干し物　干し物はぬれているうちに縫い目や小じわをよく伸ばし，形を整える。

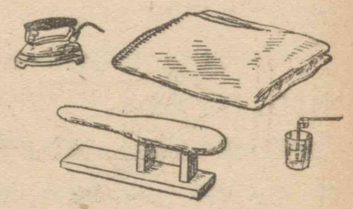
木綿・麻の白地は，強い日光に当てるのが一種の漂白ともなるが，絹・毛・人絹・スフなどは，黄色みを帯びたり，地質を弱めるものであるから，なるべく日蔭に干し，かわいたら早く取り入れる。色物もまた同様である。

干し方のいろいろな例



(ニ) 仕上げ　まる洗いをした和服類は手伸しをし，形を整えてたたみ，しばらく敷き伸してのち，再び廣げてよくかわかす。洋服類はアイロンで伸ばすか，あれば図のような仕上げ台を用いる。

仕上げ用具



(6) とき洗い

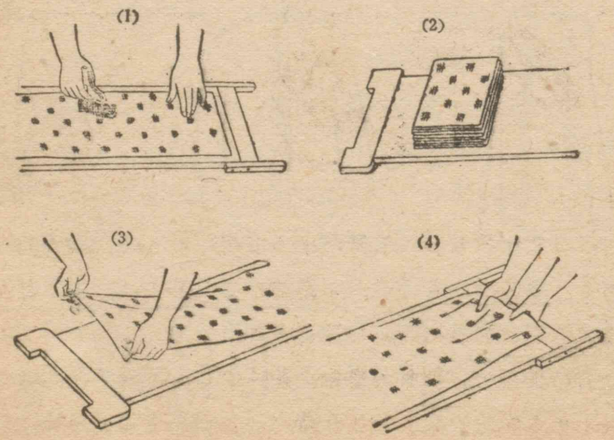
(イ) 洗う準備　破損の箇所は繕い，特によごれのところは糸じるしをし，えり肩あきをはぐ。

(ロ) 洗い方　絹物はブラッシュ洗いにし，一方で巻き取って両面を洗うが，色のしみ出るものは，洗う一方からすぐ水につけて行く。すすぎは両耳をたぐってすすぎ，扇だたみにしておしつけてしぼる。

(ハ) のり付け　綿布には水 1 l に対し，生麩 10～15g，絹布にはふのり 5～6g の割合で，まず少量の水に煮溶かして布袋に入れ，規定の水の中に振り出して使う。1 l はおよそ1反分とする。

(ニ) 仕上げ　めいせんは，アイロンかけ・伸子張り・板張り，いずれでもよいが，つむぎや節織などは布味をそこねないよう伸子

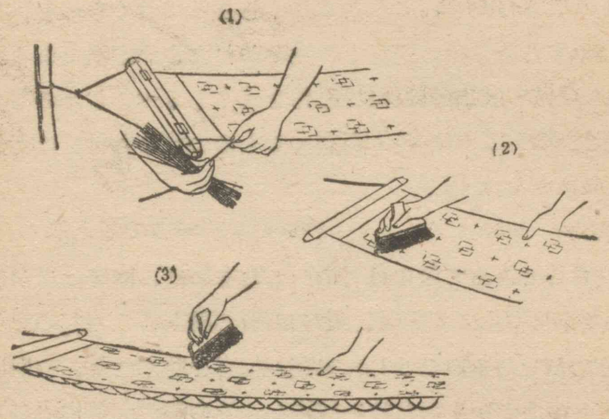
板張り仕上げ



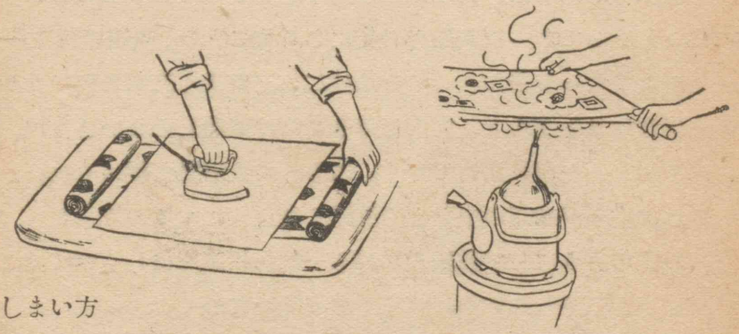
張りにする。ちりめん・お召などのしぼ物には湯のしが適当である。

＊ 人絹・スフ・メリンスの仕上げはどうするか。

伸子張り仕上げ



アイロン仕上げ　　湯伸し仕上げ



3. しまい方

被服には日常用のもの，季節によって用いるもの，儀礼的なものなどがある。季節的なものや，平常使わないものは，よく乾燥し，できれば家族別に容器に入れて保存する。

しまい方の良否が，被服の壽命に関係する一番大きいものは，かびと害虫である。それで，しまう時には，かびや害虫の発生しない

ように，まず清潔，それから乾燥に工夫することが大切である。

(1) 清潔

衣類に付いたよごれは非常に質と染色とを害するものであるから，日常もさることながら，これから長くしまっておくものを，しまう前に洗たくすることは，清潔と乾燥をかねたよい方法である。もし，洗たくできないものであれば，全体をよくしらべ，しみの部分はよごれを落しておく。又，長く保存するものにはのり付けは行わぬ方がよい。

(2) 乾燥

被服が濕氣によって起る被害のおもなものは，直接にはかびの発生となり，間接的には増量剤による地質の弱り，しみ部の変化，害虫の誘発などである。こうした衣類の損害を防ぐには，つゆ明けに一度，濕りのひどいものだけを乾燥し，その後，大氣中に最も濕氣の少なくなった 11 月か翌年2月ごろもう一度よく乾燥し保存する。

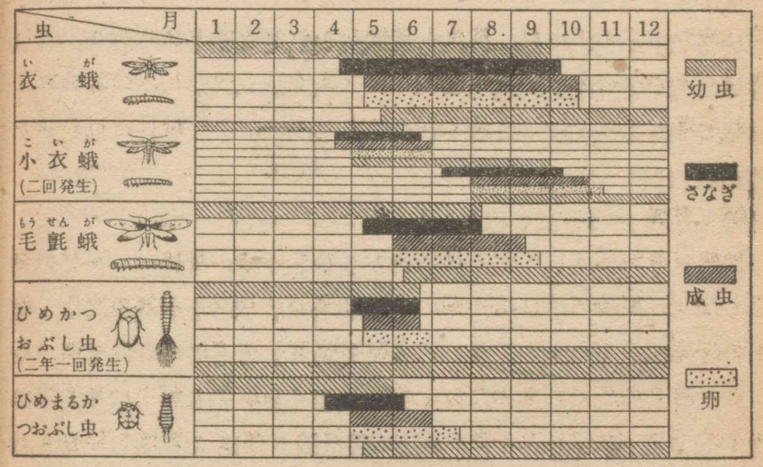
從來わが國では，古くから土用干しといって，つゆ明けの土用中に，しまってあった衣類を日光にさらすことを，年中行事の一つとしておこなって來た。この方法は二，三日よく天氣の続いたからりと晴れた日を選んで，室内をできるだけ風通しのよいように，引き窓やふすまを明け放しておく。こうして太陽熱に暖められ，かわかされた空氣が衣類の中をよく流通するようにするのである。

以上のようにして乾燥しながら一枚一枚丁寧にしらべてほこりを拂い，かびやしみがあれば早く取り除いておく。

この時容器もよくかわかし，外氣が濕っぽくならない二，三時ごろに取りこみ，しわのできたもの，縮んだものはアイロンで伸ばし，毛織物はすみずみまでブラッシュをかけて，それぞれ形を整えて容器に納める。

衣類を乾燥する時，成虫の活動期には特に注意する。よく乾燥は

しても，乾燥中に多くの卵を産み付けられることもある。虫には大体次のようなものがいるが，いずれも4月から 10 月ころまで盛んに毛織物をくい荒らす。成虫が産卵するのもこの間である。



(3) 防虫

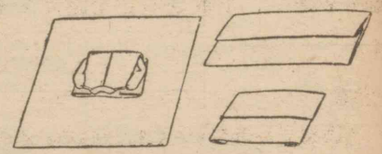
虫には，毛をたべる虫やのりをたべる虫がある。衣類のうち，最も虫害の多いのは毛織物や毛皮製品である。洗たくやクリーニングは最もよい虫退治であるが，洗たくしないでしまうものは注意しなければならない。そこで虫を退治するのに，成虫の活動期にその習性を利用して，燈火や花に集めて取り，これを焼き殺すことも考えられるが，一般には揮発性の防虫，又は殺虫剤を用いる。

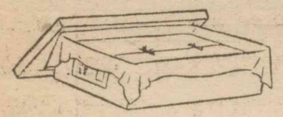
薬品にはナフタリン・しょうのう，又はパラジクロールベンゾールを原料とした，種々な防虫剤がある。そのうち強力なものになると，殺虫力のあるものもある。形にも固形・粉末があり，普通は固形を用いるが，毛皮製品の類には粉末がよい。その量は密閉困難な容器には多めに，密閉できるものには，50*cm* 立方 にパラジクロールベンゾールなどの強力なものならば約 10*g*，ナフタリン・しょう

のうならば，その5倍くらいがよい。これらは揮発性であるから，長くそのままに置いては効力が減ずるから，時期をはかって補充することが大切である。

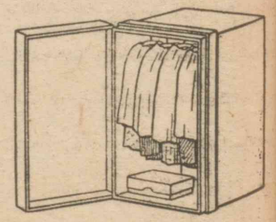
(4) 容器と保存

容器は，ふたが不十分ですき間があれば，そこから虫や濕氣が侵入する。又防虫剤を入れてもガスの逃げ道となって効果がない。容器は内側をすずなどで張った木箱で，ふたのかたくしまるものがよい。トランクやボール箱に納める場合は，衣類を新聞紙でよく包んで納める。もし竹や柳のこうりを用いる場合は，内側から空氣を通さないように，質のよいハトロン紙の類を張り付け，毛織物は一枚一枚を丁寧に新聞紙に包んで納める。しかし洋服類は形をくずさないように，つるして納めなければならないので，洋服ダンスのない時は，茶箱を工夫してこれに納めるのもよい。



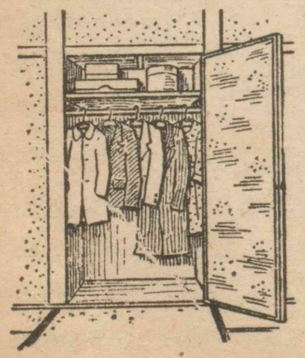


茶箱利用の例



洋服ダンスなどに保存する場合は，たびたびの出し入れに濕りやほこりがはいりやすいから注意をしなければならない。押入れの一部，へやの一部を改造した洋服掛けは大変重寶である。

押入れ利用の例



納め方にこのような注意が拂われても，長い間掛けてあった衣類にいつの間にか産卵したのを，知らずにそのまましまっては，害虫を飼うようなものであるから，平常，不要になったものを，外にいつまでも掛けつるさないように注意するはもちろん，しまう時はよく拂い，卵を死滅させるためにアイロンをかけるのもよい。

又，容器の置き場所は，なるべく日の当らない，しかも乾燥した場所を選び，下敷きの台を備えてそれに置き，風通しのよいようにする。

〔注意〕

この單元を学習するには，いろいろの設備や用具を必要とするが，これらは学校や家庭の事情によっては完備していない場合もあるであろう。このような場合には，すでにある他の設備や用具で轉用できるものはこれを利用し，又，少しの改善工夫によって適当な設備や用具となるものは，改善して有效に用いる工夫をすることが望ましい。これらは家庭管理とも深い関連を持つものであるから，これらの能力を身につけることが大切である。

地方によっては特殊の用具や方法などもあるであろう。それらについては，よくこれを研究工夫して，その適否を判断し，日常の家庭生活の上に実現して行く態度が望ましいことである。

実習作業については，家庭の事情や各自の能力に應じたものを選んで，実習するとよい。

索　引

ア，イ

間着……11
アイロン仕上げ……89
あく……83
穴つぎ……14
アフタヌーンドレス……25
油かす……84
あや織……18，19
アルカリ……23
アルカリ性……83
アンモニヤ……83
アンモニヤ液……81
衣服材料……15
糸かえり……21
糸の寄り……21
インサイドベルト……43

オ

おしつけ洗い……84
おしろい……10
汚染性……23
オーバーブラウズ……29，38，40
帯……64
織物……17
織物の柄……19
織物の強さ……20
織物の伸び……20

カ

かぎざき……15
角型のタイプ……25
角そで……57
掛けひも……49
過酸化水素水……85
可塑性……23
片より糸……18
ガーターバンド……69
髪洗い粉……9
髪形……9
髪の整え方……9
からみ織……18
含氣性……22
環境……8，12
乾燥……90

キ，ク

氣候……12
氣品……8
キモノスリーブ……30
キモノスリーブドレス……46
吸濕性……21
吸水性……21
休息着……24
教養……9
くつ下……73

ケ，コ

計画の基準……12
化粧……9
健康……8
健康美……9
原型……31
個性……8，25
更生……14，15
コーセット……67，69
構造線……25，26
光沢……20
コート地……20
ゴム引き布……20
米のとぎしる……84
米ぬかじる……84

サ，シ

作業……12
作法……50
さいかち……84
採寸……31
最低衣料……12
材料の選択……8
酸……23
酸化脂肪……80
脂肪……80
しぼり……86
しまい方……89
シルケット加工……20
下着……67
色紙つぎ……15
下洗い……85
下ばき……70
シャツ……67
ジャケット……29
斜紋織……18
しゅす織……18，19
修繕……14
ジュミーズ……67
女学生の服装……10
新調……14，15，16

ス，セ，ソ

スーツ……29
スカート……29，38
スカートの原型……36
すすぎ……86
スタイル……27，28
スリップ……67，71
ズロース……67
セーター……67
清潔……90
製作の選択……8
せっけん……82，85
繊維……17，18，20
染色……19
染色模様……19
洗たく……81
洗たく液……85
洗たく剤……82
洗たく用具……82
組織点……21
ソーダ……86
増量剤……90
そでの原型……35

タ，チ

耐久性……20
耐熱性……22
タイプ……25
ダート……38
タックインブラウズ……29，39
たたき洗い……85
たび……73
炭酸ソーダ……83
單糸……18
彈性……20
彈力性……21
着用記錄……12
チョッキ……67

ツ，テ

通氣性……22
つかみ洗い……84
繕い方……14
筒そで……57
強より糸……18
手入れ……79
テープ尺……32
テーラー型……39
手袋……75
デザイン……25，28
デザイン線……25

ト，ナ

とき洗い……88
冬季の服裝……11
胴の原型……34
ドレイピング……68
ナフタリン……91
長着……51
名古屋帶……66
長じゅばん……72
中ばき……70

ネ，ノ，ハ

熱の傳導性……22
熱線の吸收……22
熱線の透過……22
のり付け……20，23，88
ハイドロサルファイト……85
はぎ合わせ……14
はだ着……67
パップスリーブ……47
パラジクロールベンゾール……91
半幅帶……64
パンテー……67，70

ヒ

被服のあり方……8
被服計画……14
被服の数……11
被服の材料……16，17
被服の種類……11
被服調査……13，14
被服費……13
被服の必要数……8
被服の明細表……12
平織……18
標準寸法……31
漂白……85

フ，ヘ

婦人標準寸法……33
フェルト性……23
舟底そで……57
ふのり……84
服裝……9
服裝品の選択……50
フレヤースカート……41
ブラウズ……29，38
ブラッシュ洗い……84
ブラジャー……67，68
ブルーマース……67，70
平常着……24，28，51
へら洗い……84
紅……10
変化織……18

ホ，マ，ミ，ム

干し方……87
補正の仕方……44
放濕性……21
硼砂……83
保存……92
ポケット……38
ボタン……49
ボタン穴……49
防水加工……20
紡績糸……18
防虫……91
摩擦……21
交織物……18
まる洗い……86
丸型のタイプ……25
水……82
むくろじ……84
六布はぎスカート……42

メ，ヤ，ユ，ヨ

メリヤス……17
綿織物……18
諸糸……18
諸より糸……18
湯伸し仕上げ……89
容姿……8
洋服形式……24
よい身なり……50
容器……92

リ，ロ，ワ

輪郭線……25，26
流行……50
ローリングカラー……38
ワンピースドレス……45

高家 1004

被　服 I

（高等学校第1学年用）

昭和24年7月17日 発　　行
昭和25年5月21日 修 正 発 行
昭和26年3月 1 日 修正再版発行

著作権所有

著作者　堀　越　す　み

APPROVED BY
MINISTRY
OF EDUCATION
(DATE Sept. 22, 1950)

東京都千代田区西神田二丁目十番地
発行者　中教出版株式会社
代表者　永井茂彌

東京都文京区久堅町一〇八番地
印刷者　共同印刷株式会社
代表者　大橋芳雄

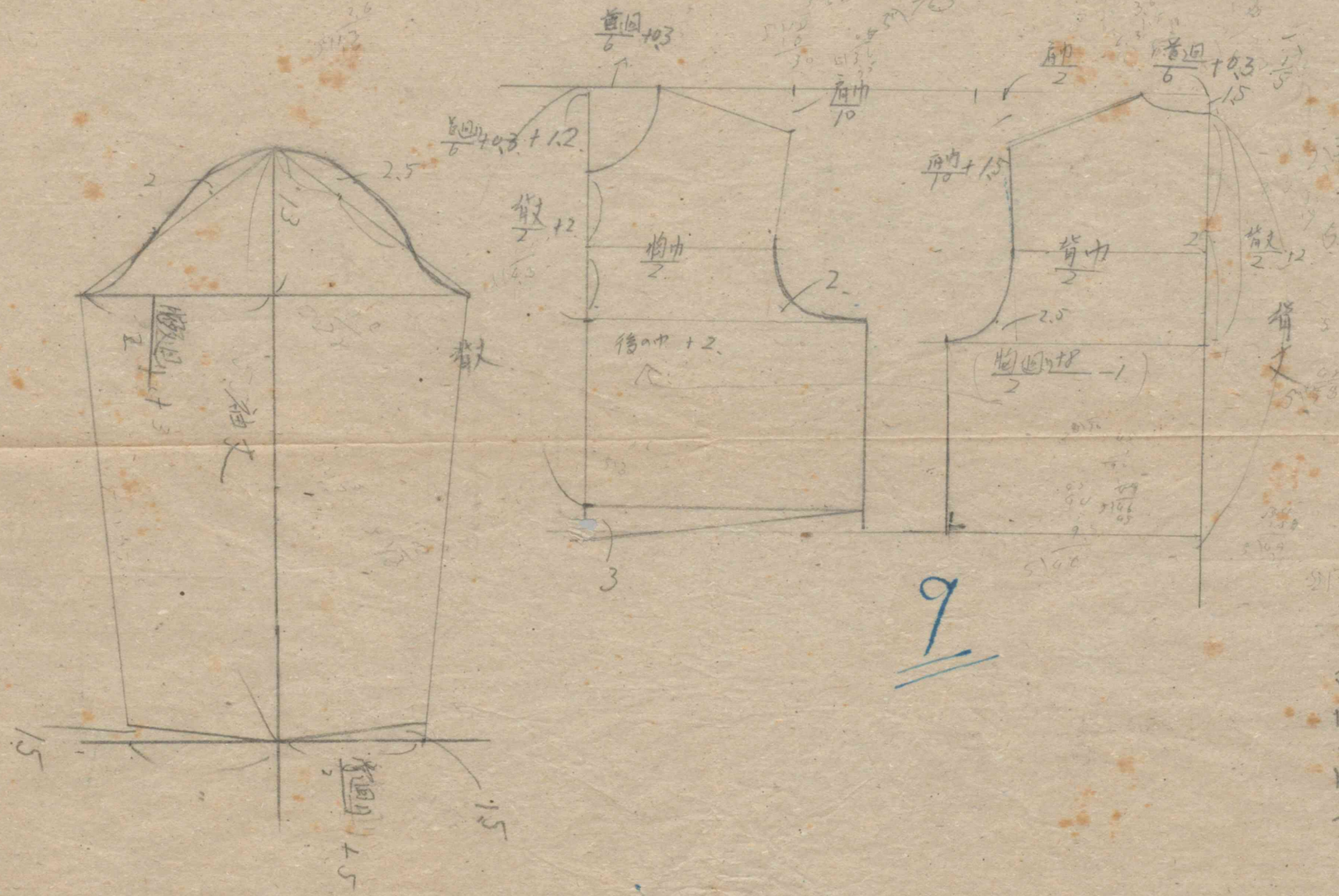
発行所　東京都千代田区西神田二丁目十番地
中教出版株式会社

¥25.50

赤坂昌子

中教出版株式会社

教科
46
2000



9

4 活科 1年 C ホーム 番
赤坂昌子